

かわの情報誌

特集

大阪市

水都大阪の取り組み～水と光の首都大阪の実現をめざして～

奈良県

水田貯留 ～みんなで取り組む流域対策～

大阪府

「逃げる」施策の推進のため、
新たな情報配信の取り組みについて

京都府

古都・長岡京エリアで浸水被害から地域を守る

どんりゅう

「いろは香龍トンネル」

2015 冬号

NO. 92

かわの情報誌 “さらさ” 第92号

ページ

特集

- 3 水都大阪の取り組み ～水と光の首都大阪の実現をめざして～ … (B)
 大阪市建設局下水道河川部河川課 青木 清隆 他
- 7 水田貯留 ～みんなで取り組む流域対策～ … (C)
 奈良県県土マネジメント部河川課 柳澤 宏治 他
- 9 「逃げる」施策の推進のため、新たな情報配信の取り組みについて
 大阪府都市整備部河川室河川整備課 江平 智昭
- 12 古都・長岡京エリアで浸水被害から地域を守る「いろは呑龍^{どんりゅう}トンネル」 … (D)
 京都府環境部水環境対策課 桒 智徳

トピックス

- 15 天ヶ瀬ダム再開発事業 … (E)
 近畿地方整備局琵琶湖河川事務所調査課 中西 大斗
- 18 河内川ダム定礎式 … (F)
 福井県嶺南振興局河内川ダム建設事務所 道久 英一
- 20 宮川流域ルネッサンス協議会の取り組み … (G)
 宮川流域ルネッサンス協議会 事務局長 世古口 幸喜

INFORMATION

- 22 「ミズベリング世界会議」が開催されました！
 近畿地方整備局河川部河川環境課 中川 雅樹
- 26 第20回水シンポジウム2015 in ふくい
 考えよう「水の恵みと災害への備え」～幸福度日本一の福井から未来への提案～
 福井県土木部河川課 軽部 正宣 他
- 30 奈良県南部東部地域シンポジウムの開催
 奈良県地域振興部南部東部振興課 津田 敏史
- 32 水探検隊「水の流れツアー」
 大阪市建設局下水道河川部調整課 早川 潤
- 33 「出会いの場としてのダムを目指して」～安威川フェスティバル2015～ … (H)
 大阪府安威川ダム建設事務所建設課 松原 信
- 35 第36回九頭竜紅葉まつり … (I)
 近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所管理課
- 38 多くの方々が「観て」「触れて」「体験」した2日間 ～ふれあい土木展2015～
 近畿地方整備局近畿技術事務所事業対策官 福本 雅宏
- 42 第27回大野ダムもみじ祭り … (J)
 京都府建設交通部河川課 下元 一男

イベント情報

- 43 ・淡海の川づくりフォーラム etc



※表紙写真

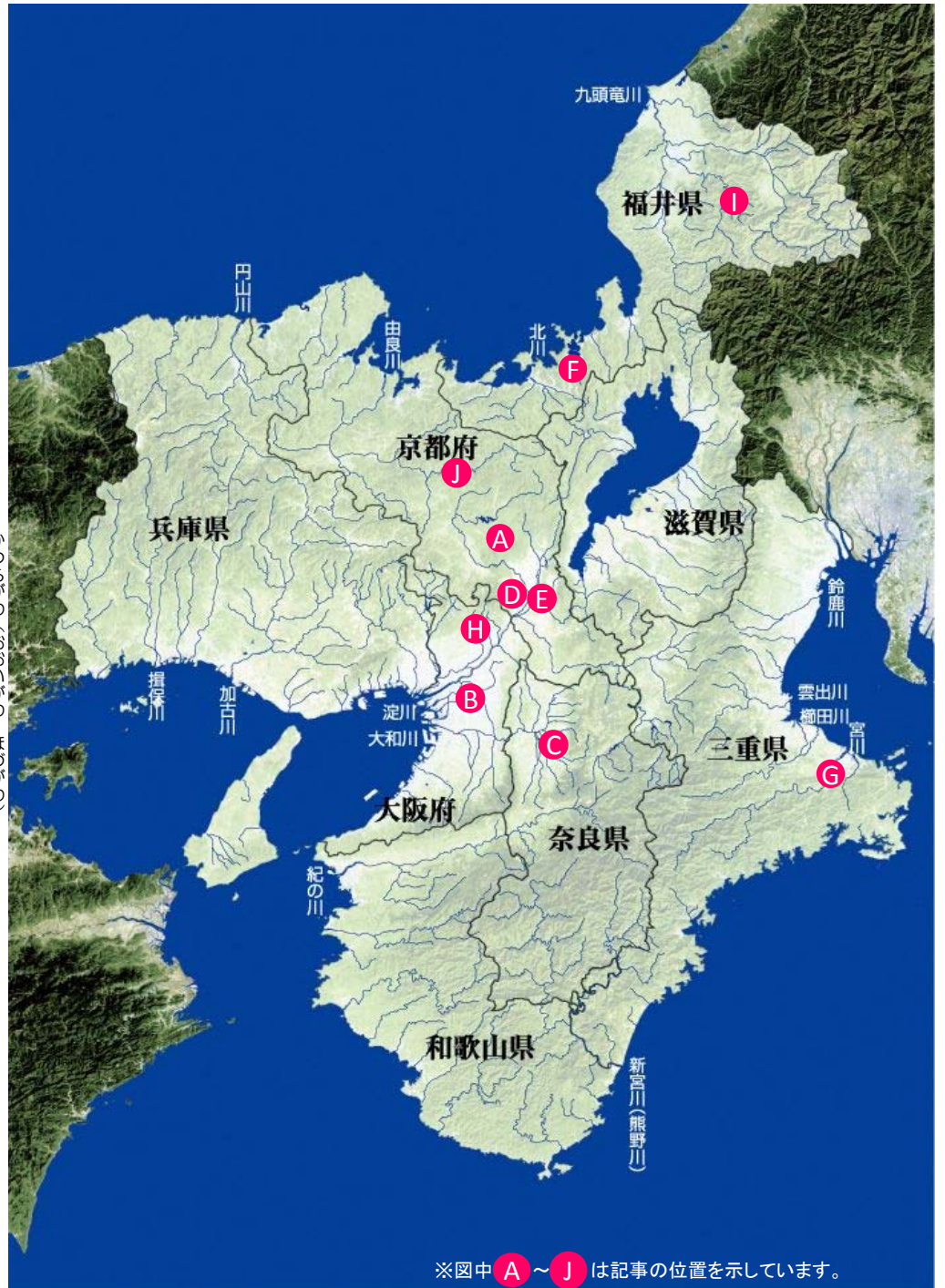
(A)

桂川（大堰川・保津川）

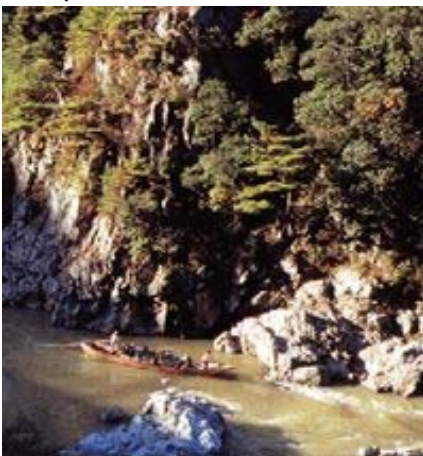
桂川は宇治川、木津川とともに淀川水系を構成する代表的な支川の一つです。京都府では、下流の嵐山から上流の京都市江北町まで（日吉ダム貯水域を除く）を管理しており、桂川中流部の嵐山から亀岡付近を保津川、亀岡から南丹市八木町付近を大堰川とも呼ばれ、親しまれてきました。

この区間では、古くから筏流しが行われ、上流の京北から良質な杉・松・桧などの丹波木材を下流に運搬し、長岡京・平安京造営に利用されていたと言われています。また、江戸時代中期には、亀岡から嵐山の間が開削され、舟運が一層盛んとなり、現在では、保津川下りとして、観光客を集めています。

かつらがわ（おおいがわ・ほつがわ）



※図中 A～J は記事の位置を示しています。



保津川下り

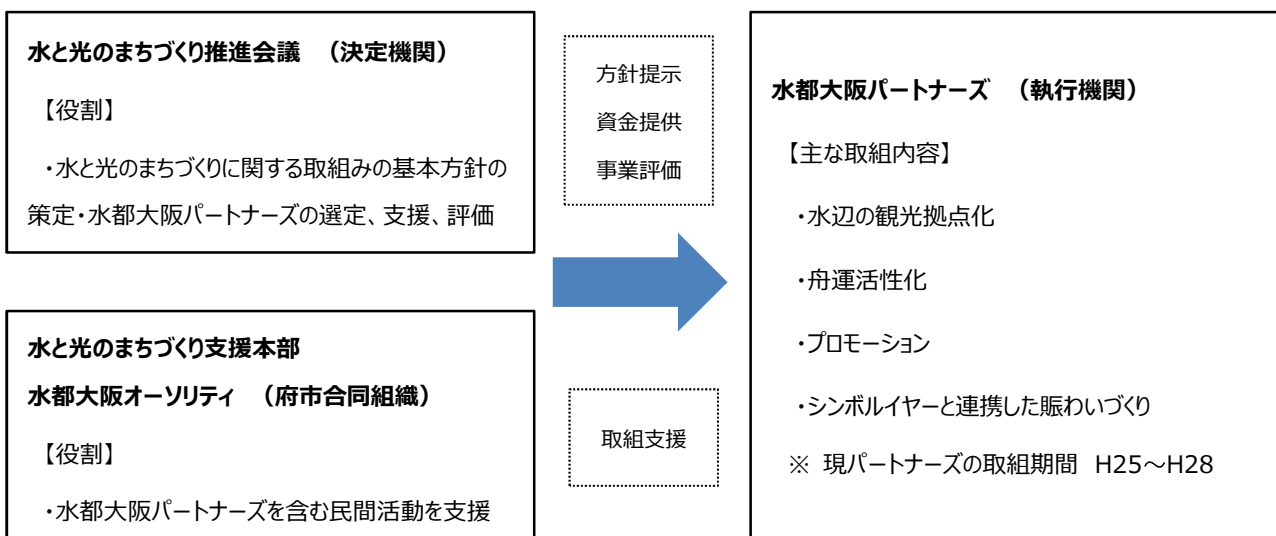


水都大阪の取り組み ～水と光の首都大阪の実現をめざして～

大阪市建設局下水道河川部河川課 青木 清隆
水都大阪オーソリティ 中野 進也
水都大阪パートナーズ 高梨 日出夫

1. はじめに

世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力創造の基盤づくりとして、民間と行政のパートナーシップのもとで新たな展開を図るため、大阪府・大阪市・経済団体等で構成する「水と光のまちづくり推進会議」を設置しました。同会議のもと民主導の都市魅力創造・まちづくりの推進を担う「水都大阪パートナーズ」を組織として募集し、その活動を支援するため、大阪府・大阪市合同組織「水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）」を設置しました。



水都大阪パートナーズの主な活動エリアは、大阪の中心部を流れる全長約 12 km「水の回廊」であり、水都大阪オーソリティと共にこの水辺の公共空間の利活用促進、水辺拠点の創出やプロモーション等に取り組んでいる。この「水の回廊」は江戸時代の河川・運河等、都市構造を今に留める水都大阪の特性であり、資産である。世界でも稀な都心を囲む水の回廊を活かし、クルーズ船や遊歩道で歴史や文化、水辺の魅力を感じる空間を楽しむことができます。



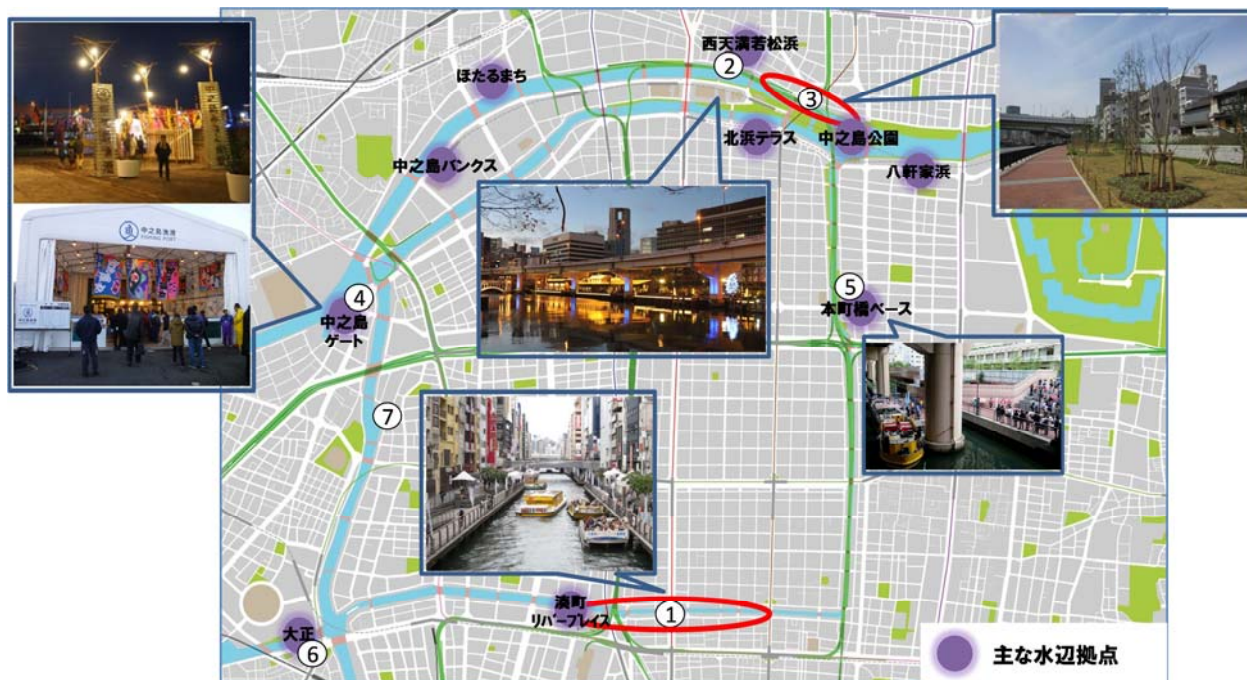
水都大阪の成り立ち



現在の「水の回廊」

2. 水辺の魅力向上

水の回廊を中心として、川の両岸に遊歩道の整備やみどりと調和した空間づくりの推進、さらには新たなシンボル空間の創出を行っています。



○主な水辺の景観形成に向けた整備内容

- ①とんぼりリバーウォーク完成【H24】
- ②西天満若松浜に中之島にぎわいの森づくりの一環として推進してきた水辺拠点が完成【H25】
- ③堂島川右岸（鉾流橋～天神橋）の遊歩道と水辺緑化が完成【H25、H26】
- ④中之島 GATE に新たな水辺拠点が完成【H26】
- ⑤本町橋船着場完成【H27】
- ⑥Taisho リバー・セブレッジが新たな水辺拠点として完成【H27】
- ⑦木津川（立売堀）の遊歩道空間整備中【H27 完成予定】

3. 水辺の賑わい創出

水の回廊を中心とした水辺空間活性化事業等の展開をはじめ、水都大阪の特色を活かした水辺の魅力向上や賑わい創出による、大阪の都市魅力の向上を図る。集客イベントの実施にあたっては、民間企業や市民からのプログラムの公募を通し、新たなビジネスモデルや市民プログラムの構築につなげるとともに、舟運事業者とも連携した水辺の賑わいの創出を図っています。



北浜テラス（民間による水辺空間活用）



水都大阪フェス（ラバーダックの展示）



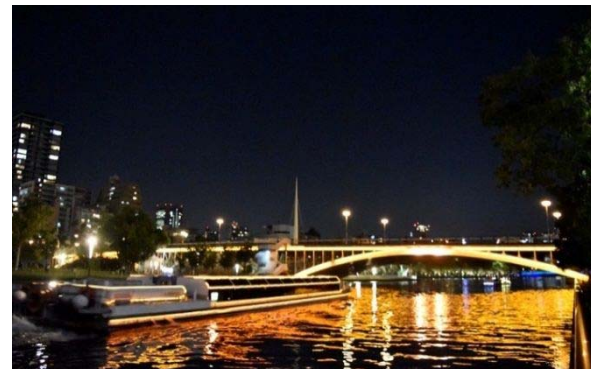
グリーンマーケットの様子（中之島）



中之島オープンテラス（中之島公園）



リバーサイドヨガ（中之島公園）



ナイトクルーズ（舟運新企画）

4. 魅力的な光景観の創出

水都大阪を構成する水の回廊において恒常的な光景観を演出するため、橋梁や水辺空間においてライトアップを行っています。また、大阪のシンボルである御堂筋のイチョウ等を光で輝かせることにより、世界に類を見ない景観を創出することを目的としている「御堂筋イルミネーション」と中之島の魅力を発信し国内外から多くの人々を招致することを目的としている「OSAKA 光のルネサンス」をコアプログラムとし、大阪の特性を活かした夜間景観の創出を通じて、魅力と賑わいに満ちた水と光の首都大阪の実現に取り組んでいます。



中之島ゲートブリッジライトアップ



銚流橋 & 西天満若松浜のライトアップ



護岸のライトアップ



御堂筋イルミネーション



OSAKA 光のルネサンス



400年の時を超え、大阪城が光り輝く

大阪城 3D マッピング

スーパーイルミネーション

5. 水都大阪2015開催事業

2015年（平成27年）は、大坂の陣から400年、道頓堀開削400周年など、現代の大阪の都市基盤となるまちづくりが始まった節目の年にあたります。そこで、大阪府、大阪市、経済界で構成する「水と光のまちづくり推進会議」では、本年を大阪の都市魅力を広く国内外に発信する「シンボルイヤー」と位置付け、その取り組みの一環として、大阪を代表する都市魅力である「水の回廊」を舞台に「水都大阪2015」を開催いたしました。開催にあたっては、3つのコアプログラムを中心に、民間が実施する様々な企画と連携し裾野の広い取組を展開しました。

オープニングイベント

道頓堀川を舞台にウェイクボードやフライボードなどの水上パフォーマンスや世界チャンピオンによる船上パフォーマンスを実施
オープニングセレモニーでは、ラッキードラゴンによる演出や音楽ライブも実施された



inochi フェスタ

「水と命が輝く未来」をテーマに、大阪の夜を水と光で彩るイベント
水と命の大切さを学ぶ企画などを展開



大阪大発見！

家族向け、謎解きファン向け、音楽ファン向けなど、さまざまな方が楽しみながら、水都大阪の魅力に触れる企画を実施



ミナ！キタ！フェスティバル

水都大阪の魅力を国内はもとより海外に向けて発信するため、お笑い、音楽、食、ファッション、など様々なコンテンツを大阪独自のカルチャーと融合させたイベントを実施



【水都大阪 2015HP】 <http://www.suito-osaka2015.jp/>

6. おわりに

長年取り組んできた水都大阪の推進については、社会実験、規制緩和、民間対話等を経て様々な取り組みを行っている。水と光の首都・大阪を世界に通用する都市ブランドとして高めていけるよう、誰もが、大阪といえば「水と光の都」「水都」をイメージできるような取り組みを継続して行っていきたい。



水田貯留 ～みんなで取り組む流域対策～

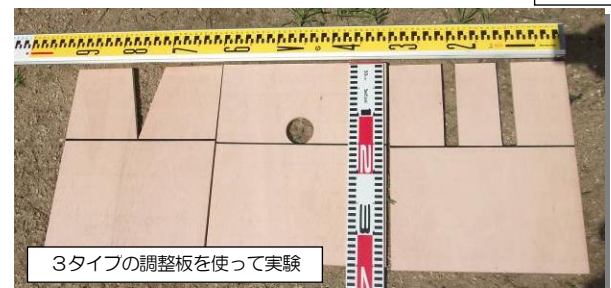


奈良県県土マネジメント部河川課 柳澤 宏治

農林部農村振興課 中村 正敏

者の協力を得て、約 37,000 m²の水田でモデル実施を開始しました。

モデル実施では、既設の排水口に調整板を設置し実証実験を行いました。



実験の結果、それぞれの農地で 7～15cmの一時貯留が確認されました。実験農地の面積は約 37,200 m²であり、総貯留量は約 3,450 m³ (25m プール約 10 杯分)と推定されています。(H24 年 8 月 14 日豪雨)



■はじめに

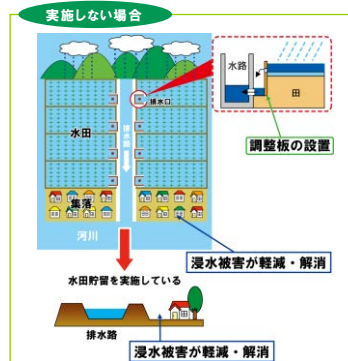
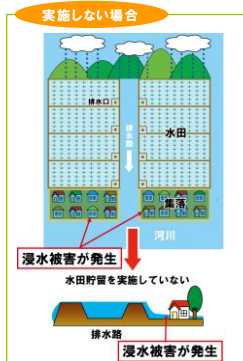
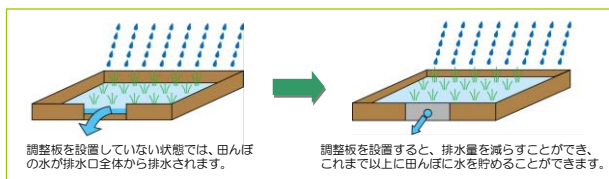
奈良県では、昭和 57 年の大和川大水害以降、国、奈良県、大和川流域 24 市町村の合意のもと、これらの機関からなる「大和川流域総合治水対策協議会」を昭和 58 年に組織し、昭和 60 年より総合治水対策を実施しています。

総合治水対策とは、河川改修やダム建設などの“治水対策”に加え、雨水貯留浸透施設の整備やため池の治水利用などにより流域の保水力を高め、雨水の河川への流出を抑制する“流域対策”を組み合わせた洪水対策のことです。

しかしながら、流域対策の進捗率の低迷や市町村毎に進捗率のバラツキがある等の問題が生じています。このように流域対策の更なる推進が必要な中、新たな流域対策の取り組みとして「水田貯留」を始めました。

■水田貯留とは

水田貯留とは、水田の排水口に 5cm ほどの穴(オリフィス)を開けた調整板を排水柵に設置することで、降った雨を一時的に水田に貯留し、雨水の流出抑制を図る取り組みです。



■これまでの取組

1. モデル実施の開始(平成 24 年度)

平成 24 年度から、田原本町大安寺地区の営農

実証実験により一定の貯留効果があることを確認出来たほか、①既設排水柵に合わせて調整板を切断する手間、②既設排水柵への調整板の設置が困難、隙間から漏水、③周囲の畦畔の低い箇所に合わせて調整板の設置高さを制限せざるを得ないなどの課題も見つかりました。

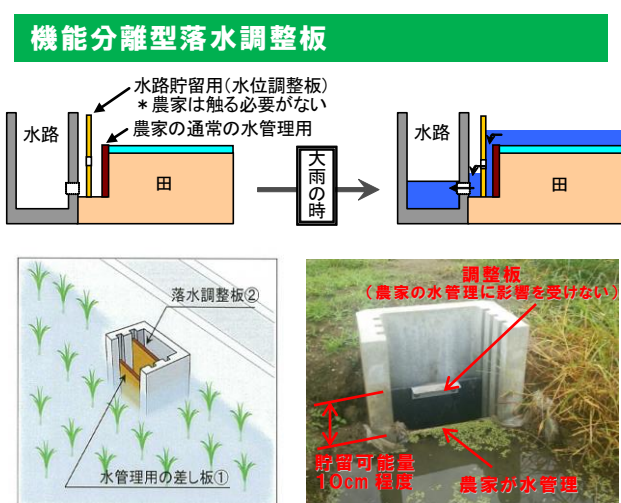
2. 取組範囲拡大と条件整備(平成 25 年度)

平成 25 年度には、同じ田原本町内の阪手北地区、西井上地区、阪手南地区、大木地区にも広がり、平成 24 年度と合わせて約 109,000 m²で水田貯

留を実施出来ることになりました。

昨年度の課題を踏まえ調整板の設置のほか、一部では条件整備(排水柵の整備や畦畔の補強・嵩上げ)を行いました。条件整備により、治水効果が高まるとともに、農家側としても水田機能の回復・向上などのメリットが生まれました。*

調整板の設置、排水柵の整備にあたっては、機能分離型落水調整板を採用しました。機能分離型落水調整板とは、下図のとおり、農家の通常の水管理に使用する堰板とは別に、排水柵の中に設置する水田貯留用の調整板のことです。この方式では、通常の水管理とは機能が分離しているため、農家の方は調整板を触る必要がないのが特徴です。



3. 他市町村への取り組み拡大(平成 26、27 年度)

田原本町内で水田貯留のモデル実施や条件整備を進めている一方で、流域市町村や農家の方々への説明会や推進活動を行ってきました。



その結果、平成 26 年度には大和高田市、大和郡山市、橿原市、桜井市、広陵町、川西町、明日香町の 7 市町村に取組が拡大し、平成 27 年度には奈良市、天理市、斑鳩町の 3 市町に取組が拡大しました。これにより、大和川流域 24 市町村のうち

11 市町村に取り組みが拡大しました。

■普及に向けた課題

普及活動をするにあたり課題となりますのが、①水田貯留をされる方のメリット、②稲作への影響(被害の有無)です。

①については、水田貯留をされる農家の方自身に対するメリットが少なく、被害軽減されるのが他の方・下流の方のため、理解を得るのが難しいところでもあります。ですので、下流の方と水田貯留をされる方を繋ぐ仕組みづくりが今後重要だと考えます。

また、②については、農家の方が一番気にされる場所である稲作への影響(被害の有無)です。奈良県のほか、水田貯留の先進地である新潟県(H14～)でも現在のところ被害はありません。今後も継続的な観察を実施するとともに、①を含めて水田貯留の普及に向けて仕組みづくり・啓発活動を実施していきたいと考えています。

■おわりに

水田貯留は、県・市町村・農家の方々が連携して初めて出来る雨水の流出抑制対策です。また、行政内でも河川部門と農林部門の連携も必要になります。このような状況の中、一つの田んぼの雨水の流出抑制効果は微々たるものかもしれませんが、この積み重ねで多くの被害を救えるかもしれません。このような思いを胸に、更なる水田貯留の普及に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

※「水田貯留」実施の流れ

1 年目はモデル実施として、既設の排水口(柵)を活用して水位調整板を設置し水田貯留を行います。また、2 年目以降、条件整備(畦畔の補強・嵩上げ)をどの程度実施するのか県・市町村及び農家の方で現地確認を行います。

2 年目以降、引き続き水田貯留に取り組んでいただける場合は排水柵を新設すると共に、現地確認で決めた条件整備を実施します。

詳しくは下記までお問い合わせ下さい。



問い合わせ先

奈良県県土マネジメント部河川課
奈良県農林部農村振興課

TEL 0742-27-7507

TEL 0742-27-7453

「逃げる」施策の推進のため、新たな情報配信の取り組みについて

大阪府都市整備部河川室河川整備課 江平 智昭

1. はじめに

大阪府では、「今後の治水対策の進め方」（平成22年6月策定）に基づき、「人命を守ることを最優先とする」を基本理念に、「逃げる」・「凌ぐ」・「防ぐ」施策を効果的、効率的に組み合わせた対策に取り組んでいる。そのうち「逃げる」施策の推進を図るため、新たな情報配信について報告する。

2. 住民の避難行動、情報配信の課題

近年、ゲリラ豪雨や北関東・東北豪雨による鬼怒川氾濫や広島豪雨による土砂災害など人命の危険に係わる豪雨災害が多発している。

こうした状況も踏まえ、市町村は住民に対し、積極的に避難勧告等を発令しているが、住民の避難率は低く、本府においても平成26年8月の台風11号では、約16万人の避難勧告に対して、数百名の避難者に留まった。

また、平成26年10月の台風19号襲来の際、本府の河川防災情報ホームページへのアクセスが集中し、一時配信不能の状態となった。（図-1）

これは、防災に対する府民の意識の高まりや、手軽に情報収集できるスマートフォンなどの情報通信機器の普及も要因と考えられる。

これら課題を踏まえ、「迅速・確実」な避難行動に繋がる効果的な情報発信が求められる。

3. 新たな情報配信等の取り組み

平成27年度より、防災情報を府民へ迅速・確実な配信するなどの、府民自らの適切な避難行動を支援する新たな情報配信等の取り組みを報告する。

【防災情報の配信強化】

「大阪府河川防災情報」ホームページは、府で観測する河川水位や雨量、潮位などの観測情報を、府民、水防管理者へ提供するものである。

このホームページが、平成26年10月の台風19号の際、1時間20万件を超えるアクセスの集中により、一時閲覧不能となった。

これは、全国的な豪雨災害に対し、府民の風水害に対する意識の高まり、また、スマートフォンの普及などによる情報ツールの多様化等の社会的状況の変化が原因と考えられるが、「逃げる」施策を推進する上で、アクセス集中による府民や水防管理者へ情報発信ができないことは致命的な問題である。

そこで、避難行動に必要な防災情報を確実に提供するため、クラウド型配信システム（図-2）を採用し、このホームページ配信強化を、平成27年7月までに完了させた。

配信強化より3日に上陸した台風11号でも、ホームページへアクセスが昨年の台風よりも集中したものの、閲覧不能に至ることはなく、効果があったと思われる。

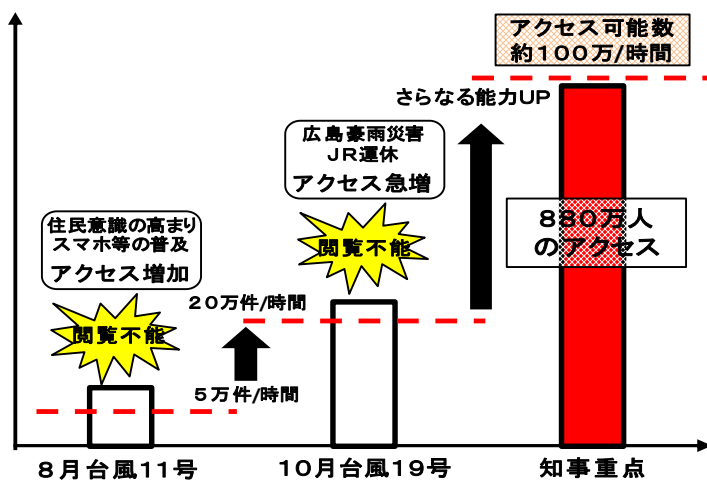


図-1 アクセス集中により河川 HP がダウン

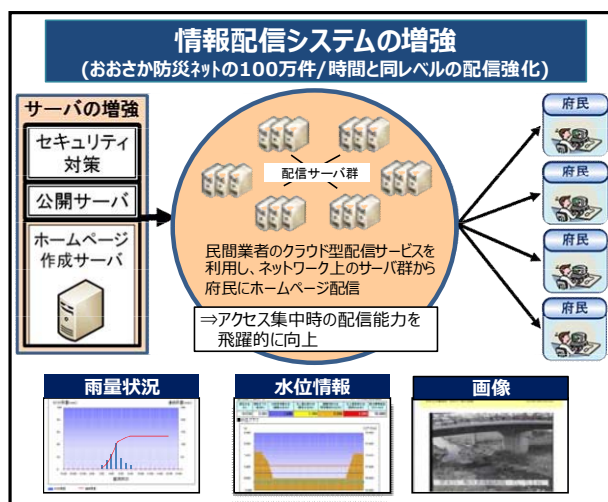


図-2 HP 配信強化イメージ

【府民の効果的な情報発信

～簡易河川カメラによる映像配信～】

近年多発する集中豪雨等に対して、防災情報を確認（アクセス集中による問題）するなど、府民の防災意識への向上は伺えるものの、避難行動にまで繋がっていない。

これは、行政の避難勧告等の発令や数値や文字の防災情報だけでは、府民が「危険な状況が実感できず」避難にまで至らないことが考えられる。

府民に、河川の「危険な状況を実感いただく」ため、河川水位や雨量情報と併せて、河川のリアルタイムな映像を提供するため、民間が提供する WEB カメラを導入、平成 27 年度に 10 箇所のカメラ設置を行い、これまで設置した 30 箇所と併せて河川画像を公開できるようになった。画像公開については、「府民へ分かりやすく情報配信」に則するため、河川画像と併せて、市町村の避難行動に関する情報や、設置箇所付近の洪水リスク情報などを同時に配信するレイアウトとした「画像公開システム」をホームページにして、平成 27 年 9 月より配信を始めた。

(図-3-1, 2)

次年度も引き続き、河川カメラの増設を進めていきたい。

画像公開システム>トップページ

防災情報

避難勧告・指示
現在、当該自治体から提供している情報は提供していません。災害時等必要な時点で情報をお知らせします。

気象警報・注意報・気象情報
気象警報・注意報
特別警報
警報・竜巻注意情報
注意報
府内の気象警報・注意報を見る
大阪府気象情報を見る

洪水予報の発表状況

防災関連ページへのリンク

- 大阪防災ネット(大阪府危機管理室)
- 川の防災情報(国土交通省)
- 洪水リスク表示図(大阪府河川室)

大阪府河川防災情報TOPページへ戻る

北大阪	大阪市内	東部大阪	南河内	泉州	府下全域
北大阪カメラ設置箇所一覧					
①余野川 女美尾橋 豊能郡豊能町余野	②安城川 太田橋 茨木市西太田町30	③上の川 千里山東公園前 吹田市千里山車2丁目			
④拾尾川 弥生橋 高槻市花林苑	⑤余野川 高橋 池田市車山町	⑥箕面川 箕面川橋 池田市石橋2丁目17			
⑦千里川 春日橋 豊中市桜の町	⑧高川 水路橋 吹田市江坂町3丁目	⑨天竺川 天竺川橋 豊中市服部本町1丁目			
⑩山田川 阪急京都線 摂津市車正街5	⑪茨木川 常久良橋 茨木市貝原3丁目	⑫女満川 天竺橋 高槻市車五百住町3丁目15			
⑬拾尾川 拾尾川橋 高槻市野田2丁目	⑭芥川 芥川橋 高槻市殿町	⑮水無瀬川 水無瀬橋 島本町車			

図-3-1 画像公開システムホームページ (<http://www.osaka-pref-rivercam.info/>)

北大阪・安威川 太田橋

平常時
02Aigawa 2015-08-25 14:19:47



防災情報

避難勧告・指示

現在、当該自治体から提供している情報はありせん。災害時等必要な時点で情報をお知らせします。

XバンドMPLレーダ雨量情報
国土交通省

・避難勧告・指示状況を見る

茨木市 洪水ハザードマップ情報はこちら

カメラ位置周辺の洪水リスク表示図 凡例



*この浸水図は200年確率降雨(概ね90mm/hr)の雨が降った場合に想定される浸水の状況を河川氾濫解析より作成したものです。

雨量情報 **水位情報**

画像公開システムTOPページへ戻る

現在(1分おきに自動更新されます)
02Aigawa 2015-12-04 09:30:02

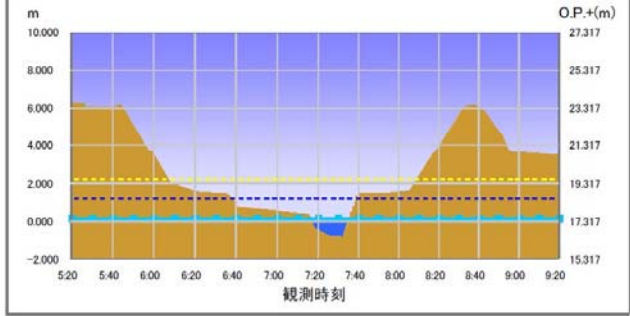


水位グラフ 60分水位 2015年12月4日(金) 09:20現在

茨木土木事務所 安威川 太田橋
茨木市西太田町29

現在水位 (m)	堤防までの高さ(m)	水防団待機水位 (通報水位)(m)	はん濫注意水位 (警戒水位)(m)	避難判断水位 (特別警戒水位)(m)	はん濫危険水位 (危険水位)(m)	量水堰堰高 (O.P.)(m)
0.180	5.831	1.250	2.250	—	—	17.317

■水位グラフ



■水位一覧表

日時	12/4 5:30	12/4 5:40	12/4 5:50	12/4 6:00	12/4 6:10	12/4 6:20	12/4 6:30	12/4 6:40
水位(m)	0.190	0.190	0.190	0.190	0.190	0.190	0.190	0.190
水位(O.P.)(m)	17.507	17.507	17.507	17.507	17.507	17.507	17.507	17.507
水位変化(m)	0.000 →	0.000 →	0.000 →	0.000 →	0.000 →	0.000 →	0.000 →	0.000 →

© Copyright 2010 Osaka Prefecture. All rights reserved.

図-3-2 画像公開システムホームページ (<http://www.osaka-pref-rivercam.info/>)

5. おわりに

新たな取り組みのうち「防災情報の配信強化」については、早期対応できたことから、台風期でのアクセス集中に備えることができた。引き続き、確実な防災情報の配信を行っていく。府民や水防管理者へ新たな防災情報の提供を

目的とした「画像公開システム」による配信について、これまでの「逃げる」施策での市町村と連携した洪水リスクの周知に併せて、簡易河川カメラで配信する情報が住民の避難行動に活用されるなどの、さらに効果的な情報の活用につけていけるよう、検討していく。

古都・長岡京エリアで浸水被害から地域を守る「いろは呑龍トンネル」^{どんりゅう}

～桂川右岸流域下水道雨水対策事業～

京都府環境部水環境対策課 榎 智徳

1 はじめに

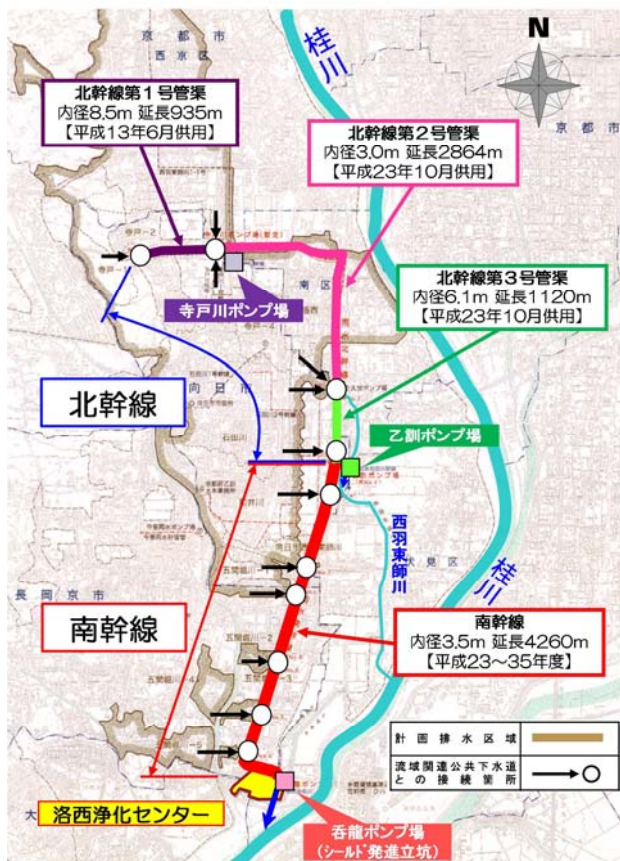
京都市西京区～南区、向日市、長岡京市にまたがる桂川右岸地域の度重なる水害から地域を守るため、京都府では、平成7年度から流域下水道の雨水対策事業として地下トンネル「いろは呑龍トンネル」の整備を進めています。平成23年度までに延長約5kmの北幹線第1～3号管渠の供用を開始し、約10万7千m³（25mプール約360杯分）の貯留能力により、これまでの集中豪雨における浸水被害を大幅に軽減しており、地域の安心・安全な暮らしとまちづくりを支えています。



2 事業概要

桂川右岸地域は、古くは西暦784年に長岡京が置かれた地域ですが、わずか10年で平安京へ遷都となったのは、桂川の堤防と西山山麓を流れる小畑川に挟まれたすり鉢状の地形に建設されたことによる、度重なる浸水被害が一因であったと言われています。また、昭和の高度成長期以降は、JR東海道本線、阪急京都線、国道171号など京都と大阪を結ぶ交通網の発達とともに急速に市街化が進みました。

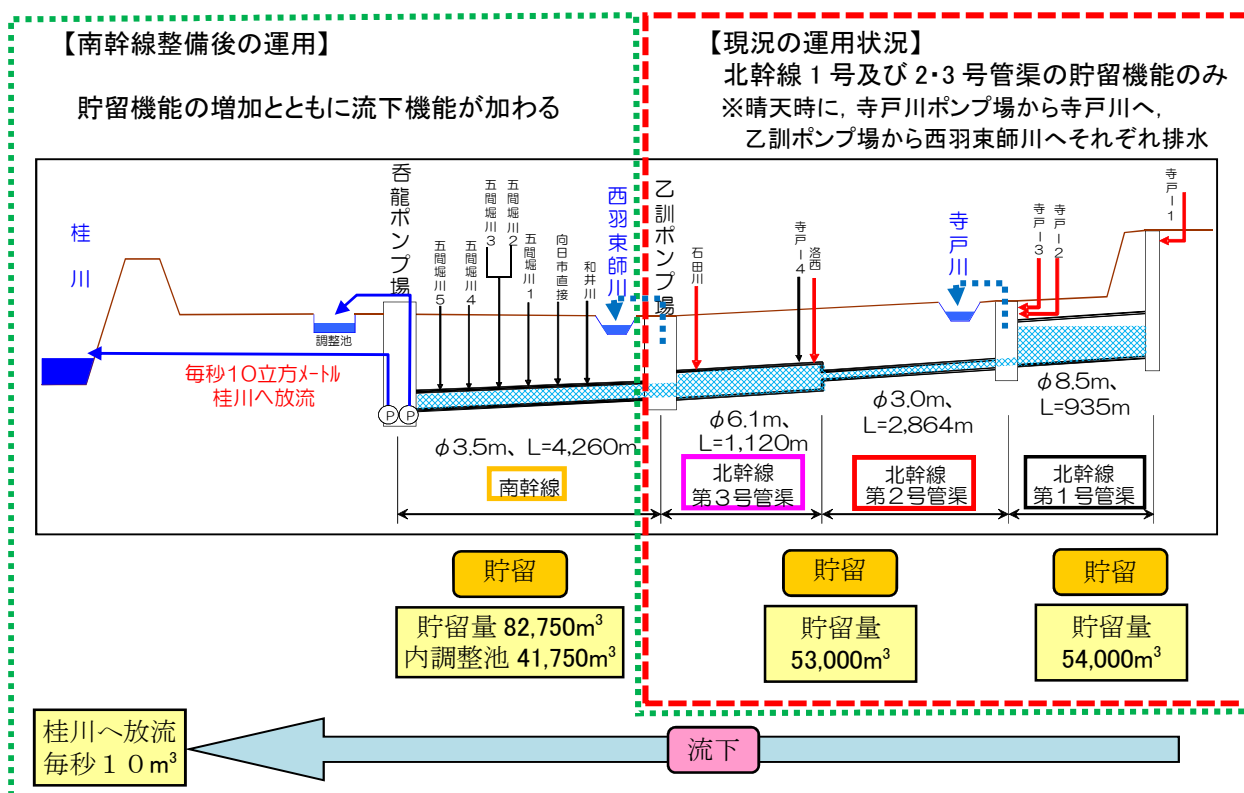
また、地域を流れる寺戸川や石田川は、1,400年以上も前に造営されたかんがい用水路を原形としたもので、流下能力は低く、多くの橋梁が架けられ沿川に人家が立ち並ぶなど、抜本的な改修が困難な状況です。このため、平成以降も数百戸を超える浸水被害が何度も発生していました。



いろは呑龍トンネルは、排水面積 1,421ha、1/10 確率規模の降雨 61.1 mm/hr を対象に、延長約 9km の幹線管渠（地下トンネル）を整備するもので、排水ポンプ場 3 か所と調整池 1 か所を合わせた施設全体で 238,200m³ の対策量（189,750m³ の貯留機能と 48,450m³ の流下機能）を確保し、雨水を取り込む関連公共下水道とは 10 か所の地点で接続します。

主に府道中山稻荷線と国道 171 号の地下に布設する雨水幹線のシールドトンネルは、上流部（北側）の約 5km を北幹線（φ3.0m～8.0m）、下流部（南側）の約 4km を南幹線（φ3.5m）として、早期に効果発現が見込まれる北幹線最上流の工区から段階的に整備を進めており、平成 13 年 6 月に北幹線第 1 号管渠、平成 23 年 10 月に同第 2・3 号管渠の供用を開始しました。

現在は、第 1 号管渠と第 2・3 号管渠をそれぞれ分離独立した雨水貯留管として運用しており、合わせて 107,000m³ の貯留機能を備えています。また、平成 25 年度からは南幹線に着手しており、施設全体が完成すると、北幹線と南幹線をつないで呑龍ポンプ場から桂川へ常時放流するため、流下機能として 48,450m³ を見込むことができます。

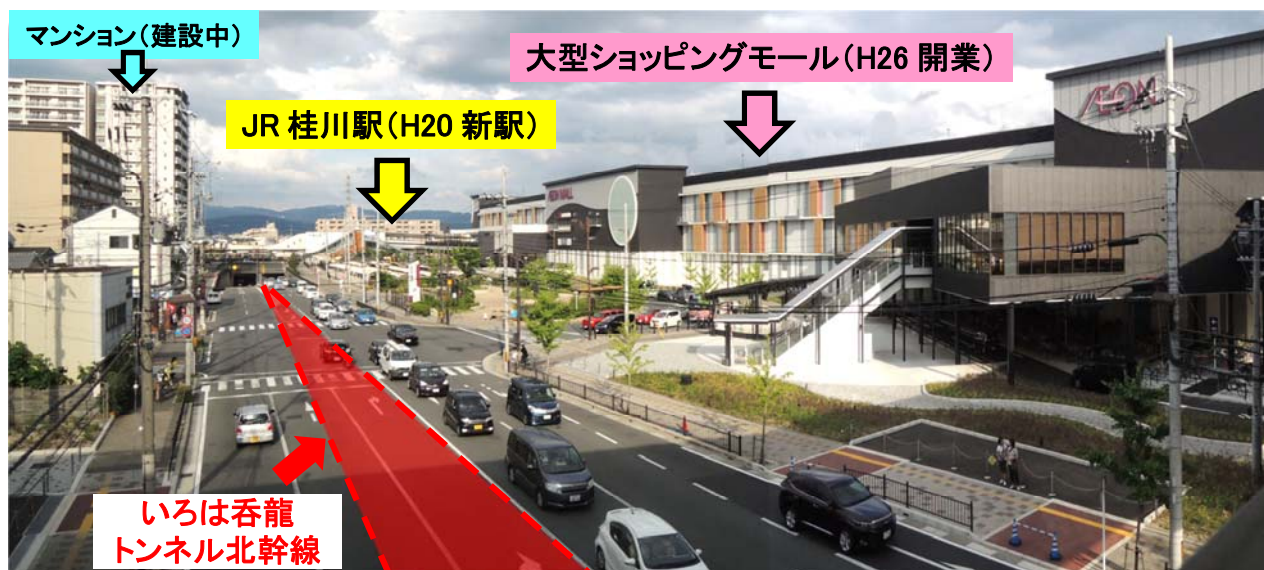


3 整備効果

いろは呑龍トンネルは、供用開始から平成 27 年 3 月までの大雨で、合計 144 回、延べ約 84 万 m³ の貯留実績があり、延べ浸水被害軽減戸数は 2,000 戸以上と推計しています。

特に、全国で初めて大雨特別警報が発表された平成 25 年 9 月の台風 18 号の豪雨では、供用してから初めて貯留率が 100%になるまで貯留しました。残念ながら床上 2 戸、床下 104 戸の浸水被害が発生したものの、いろは呑龍トンネルの貯留効果が無かった場合の浸水シミュレーションで 900 戸以上と想定される浸水被害を大幅に軽減しました。また、平成 26 年 8 月の台風 11 号でも貯留率が 100%に達しましたが、被害は床上浸水 1 戸に止まっています。府内各地で甚大な被害をもたらした近年の台風の大雨において目に見える効果を発揮したことにより、いろは呑龍トンネルが安心・安全な暮らしを支えていることを、地域の方にも感じていただけたと思います。

また、北幹線第1号管渠の供用開始（平成13年度）以降、事業対象地域では阪急京都線の洛西口駅、JR東海道本線の桂川駅等の新駅開業とともに、駅周辺に広がる新市街地の戸建て・マンションの住宅開発、商店、サービス施設、銀行、学校等の立地が進むなど、地域の発展や安心・安全なまちづくりにおいても、いろは呑龍トンネルのストック効果が発揮されています。



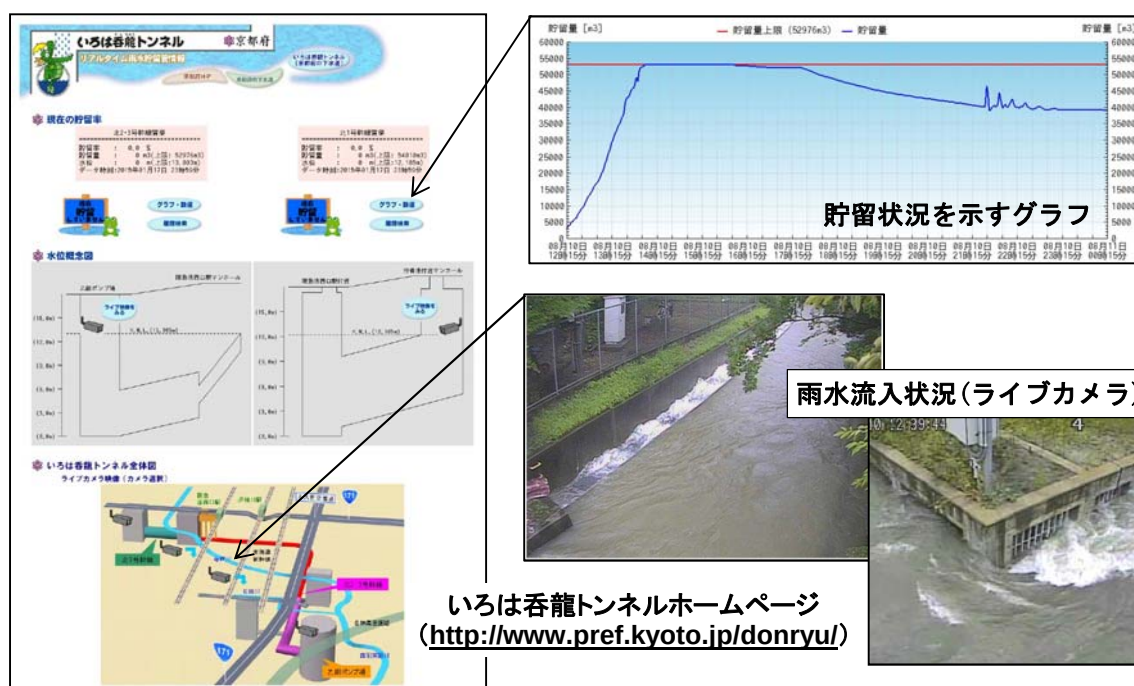
4 おわりに

今後は、いよいよ本格的なシールド工事に着手する南幹線の整備を推進し、平成32年度の暫定供用開始、35年度の事業完成を目指します。

また、普段は見ることのできない地下構造物が、古都・長岡京エリアの安心・安全な暮らしを支えていることを府民のみなさんに広く知っていただくとともに、現在の施設規模を超える台風などの大雨においても被害を最小限に抑えるべく、自助や地域共助の大切さを啓発するため、地域イベントや見学会、ホームページ等による積極的な情報発信に努めていきたいと思ひます。



お子さんに大人気の「呑龍くん」



天ヶ瀬ダム再開発事業

琵琶湖河川事務所 調査課 中西 大斗

《天ヶ瀬ダムの概要》

昭和28年の台風13号は、淀川沿川地域に大きな被害をもたらしました。この大洪水を契機に「淀川水系改修基本計画」が昭和29年に策定されました。天ヶ瀬ダムはこの計画に基づき、淀川の洪水調節・京都府への水道用水の供給・天ヶ瀬発電所における発電を目的として、昭和34年から昭和39年にかけて造られた多目的ダムです。天ヶ瀬ダムは下流宇治川の氾濫を防ぐとともに、淀川本川のピーク時には、さらに放流量を調節して洪水の低減を図ります。しかし、現在の天ヶ瀬ダムでは昭和46年に改訂した治水計画に対して、放流能力が小さいため、洪水初期の段階から洪水を貯留し始める事になり、洪水調節容量が不足し十分に効果を発揮できません。

《天ヶ瀬ダム再開発事業概要》

そこで、天ヶ瀬ダム再開発事業では、ダムからの放流能力を高めるため天ヶ瀬ダム左岸側に延長617mのトンネル式放流設備を新設する工事を行っています。放流能力を増強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで洪水調節機能を強化することができ、また、効率的な運用に伴って、利水に活用出来る容量も拡大できます。

トンネル式放流設備は、流入部、導流部、ゲート室部、減勢池部、吐口部の5つの施設で構成されています。

流入部は直径約28m、高さ約50mの円筒形の構造物で、ダム湖の水を深さ40mのところから取り込む施設です。

導流部は、流水を下流に導く、内径10.3mの大規模円形トンネルです。

ゲート室部は直径約24m、地上から約50mの深さがある円筒形の施設です。ここには放流量を調節する主ゲートと副ゲートが備わります。

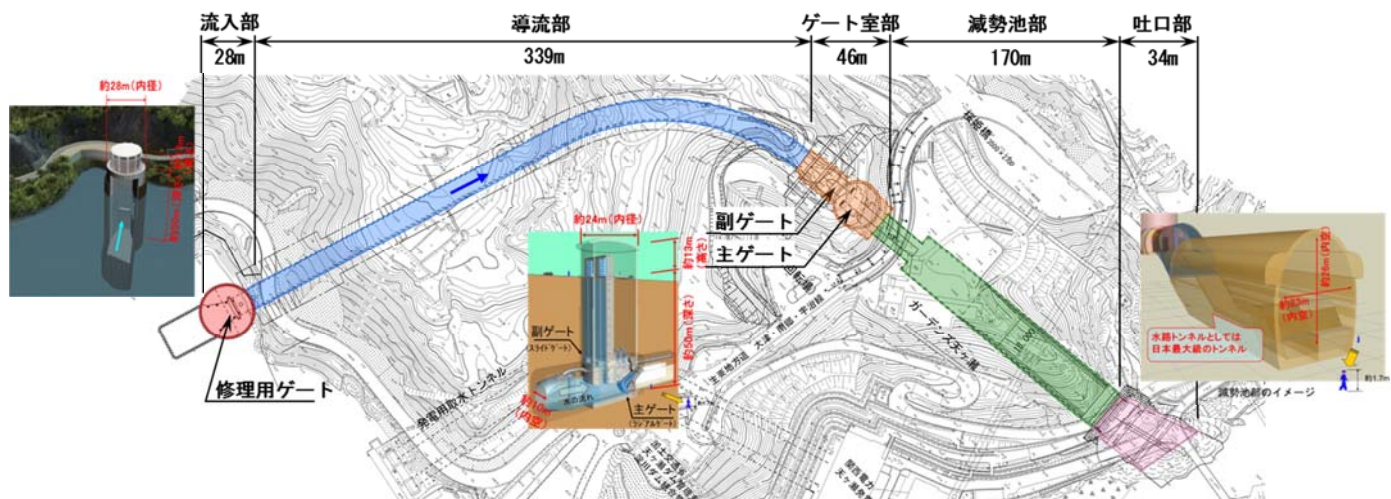
減勢池部は水の勢いを緩めるための施設で、周辺の環境、景観に配慮してトンネル内に配置します。完成すれば高さが約26m、最大幅が約23mの大断面を持つ日本最大級の水路トンネルになります。

吐口部は、減勢池部で勢いを弱めた水を吐き出すトンネル式放流設備の出口です。

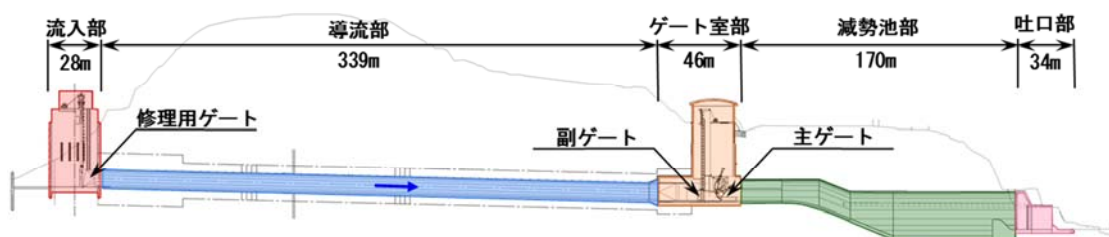
現在、流入部、導流部、ゲート室部、減勢池部の工事に着手しており、その進捗状況（10月26日時点）についてご紹介させていただきます。



※再開発後の画像はイメージです



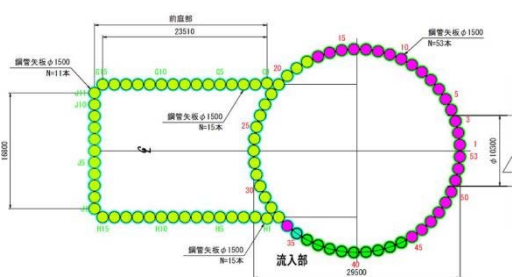
平面図



縦断図

1. 流入部

前庭部の41本の鋼管矢板の施工と前庭部での水中バックホウによる水中掘削は終了しています。現在は流入部の鋼管矢板の施工を行っています。



平面図



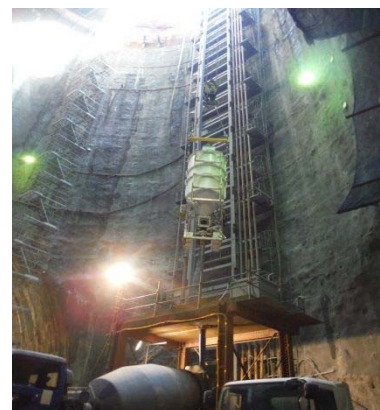
流入部 全景



流入部 鋼管矢板施工

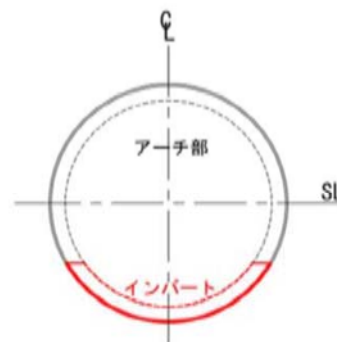
2. 導流部・ゲート室部

これまでにゲート室部は立坑の掘削、導流部は、流入部の手前30mまで掘削を終えています。現在は導流部の覆工を行っています。流入部方向に向かってアーチ部分は32m/300m地点、インバート部分は116m/300m地点まで



ゲート室部 立坑

覆工が進んでいます。



導流部 インバート部分覆工



導流部 アーチ部分覆工

3. 減勢池部

大断面の上半にある小さな3つのトンネルである先進導坑の掘削、支保工の施工が終了しました。

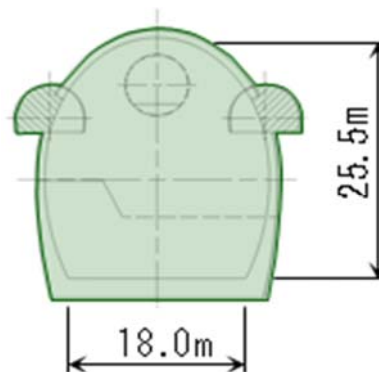
側壁導坑（左右）は、9.9m／9.9m地点

中央導坑・シュート部は、136m／142m地点まで掘削した状態です。

後にアーチ部と下半へと大断面の掘削が行われます。



減勢池部 3つのトンネル



《魅せる！現場》

近畿地方整備局では、地域の皆様に我々が実施している事業の現場を実際に“目で見て”知って頂くため、一般の方を対象に普段は立ち入りを制限している工事現場等の見学を実施しています。

天ヶ瀬ダム再開発事業でもたくさんの方々に見学に来て頂いています。また、HPでは、このような現場で働く人々の活躍を紹介する等のPR活動も行っています。

※詳しくは、近畿地方整備局HP『魅せる！現場』内をご覧ください。

<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/genbakengaku/index.html>

河内川ダム定礎式

福井県 嶺南振興局 河内川ダム建設事務所 道久 英一

1. 河内川ダム建設事業の概要

一級河川河内川は、福井県三方上中郡若狭町に位置し、その源を福井・滋賀県境の駒ヶ岳（標高 780m）に発し、山間部をほぼ北流し、若狭町熊川地先にて北川本川に合流する河川です。

北川水系ではこれまで幾多の水害に見舞われ、最近では、平成 16 年、25 年の台風による浸水被害が発生していることから、かねてより治水対策が急務となっています。

また、夏季にはたびたび深刻な水不足に見舞われており、平成 6 年には若狭地方において異常渇水が発生し、取水制限が行われるなど、被害が生じました。

こうした問題を解決するため、洪水調節、かんがい用水・水道用水・工業用水の確保ならびに河川環境の保全を目的として、昭和 62 年度から河内川ダムの建設を進め、平成 24 年 12 月よりダム本体工事に着手し、26 年 10 月より堤体工のコンクリート打設を開始しています。

- ・事業箇所 福井県三方上中郡若狭町熊川
- ・事業期間 昭和 62 年度～平成 31 年度
- ・ダム諸元

型 式：重力式コンクリートダム
堤 高： 77.5 m
堤 延 長：202.3 m
総貯水容量：800 万 m^3
有効貯水容量：720 万 m^3



図-1 河内川ダム完成予想図



図-2 河内川ダム貯水容量配分図

2. 定礎式の開催

平成 27 年 11 月 2 日（月）、河内川ダム建設現場（若狭町熊川）において、定礎式を行いました。

当日は、西川福井県知事、北川総合開発対策協議会会長の森下若狭町長、副会長の松崎小浜市長をはじめ、国会議員、県議会議員、市議会議員、町議会議員、国土交通省近畿地方整備局長、地元関係者、熊川小学校児童、工事関係者など約 170 人が出席し、ダムの永久堅固・安泰を願いました。



写真-1 定礎式会場全景



写真-2 礎石搬入



写真-3 鎮定の儀

定礎式では、西川福井県知事が「北川流域の水害や干ばつ問題を解消するため河内川ダムの建設を進めてきた。定礎式を迎えられたことも、ひとえに、皆様方のご理解、ご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げたい。」と式辞を述べ、引き続き森下若狭町長と松崎小浜市長の挨拶、来賓の方々の祝辞の後、福井県嶺南振興局河内川ダム建設事務所長が工事報告を行いました。

続いて、^{ばんしょうぼんかい}番匠保存会の木遣りの音頭に合せて礎石が搬入され、主催者、来賓、工事関係者により『^{ちんてい}鎮定の儀』、『^{いみ}齋鐔の儀』、『^{まいのう}斎槌の儀』が執り行われ、礎石が鎮定されました。

その後、地元熊川小学校の児童が将来の夢などを書いたメモリアルストーンとともに、『^{まいのう}埋納の儀』にて、バケツからコンクリートが放出され、礎石が埋納されました。続いて、万歳三唱とともにくす玉開放が行われ、式典は盛会のうちに締めくくられました。



写真-4 齋鐔の儀



写真-5 メモリアルストーンの設置（熊川小学生）



写真-6 埋納の儀



写真-7 くす玉開放

3. おわりに

河内川ダム建設工事は、平成29年度にコンクリートの打設を完了し、管理設備整備や湛水試験を経て、平成31年度末の完成を目指しています。

定礎式を終え、これから本体工事は最盛期を迎えることとなりますが、引き続き工事の安全に万全を期すとともに円滑な工事の進捗、品質の確保ならびに自然環境の保全に努めつつ、事業推進に一層努力をしていきます。

宮川流域ルネッサンス協議会の取り組み

宮川流域ルネッサンス協議会 事務局長 世古口 幸喜

1. はじめに

宮川流域ルネッサンス事業は、総合行政・流域圏づくりのモデル事業として平成 9 年度にスタートしました。平成 10 年 2 月に「宮川流域ルネッサンス・ビジョン」（以下、ビジョンという。）を策定し、基本理念と目指すべき次世代の流域像として、21 世紀後半を念頭に描いた「未来の宮川流域」が示されました。

平成 10 年 12 月には、平成 22 年度を目標年度として県事業を中心に流域市町や国関係機関の関連事業も掲載した「宮川流域ルネッサンス基本計画」（以下、基本計画という。）が策定されました。この基本計画に基づき、平成 11 年度から 4 年毎に実施計画を策定し、様々な事業に取り組んできました。

また、平成 23 年 3 月には、流域 7 市町長と三重県知事により、協力・協働して美しい宮川を守り、流域の住民が誇りうる、ふるさとをつくることを決意した「宮川流域宣言」がなされました。事業主体が県から流域市町に移行された後も、ビジョンの基本理念を引き継ぎ、健全な水環境の構築、豊かな自然の保全・再生、魅力ある地域づくりを事業テーマにした「宮川流域ルネッサンス協議会事業方針」に基づき事業を展開しています。

2. 宮川流域・圏域の概要

宮川流域は、宮川と大内山川などの支流からなり、伊勢市のほか、多気郡多気町・明和町・大台町・度会郡玉城町・度会町・大紀町の 1 市 6 町に及びます。宮川は、国土交通省の全国一級河川水質調査において、平成 3 年から平成 23 年の 21 年間で最も水質が良好な河川に 11 回位置づけられ、「清流日本一」として観光資源や地域の特産品にも生かされています。

また、宮川流域には、清流に育まれた自然・歴史・文化・産業・伝統があり、上流部は大杉谷をはじめ豊かな自然に恵まれ、中流部では川霧に育まれるお茶などの産業や鮎漁などが盛んです。下流部においては、お伊勢参りの伝統が息づき柳の渡し跡や桜の渡し跡があり、渡し船で旅人をお伊勢さんへといざなった面影が残されています。

圏域としては、郡部として多気郡が 3 町、度会郡が 3 町あります。県の行政区域は、多気郡が松阪地域管内、度会郡・伊勢市は伊勢地域管内となっており、県が所管する地域防災、建設、農林、保健所等業務は担当事務所が異なる行政区域を超えた広域連携となっています。

3. 当協議会の主な事業

（1）宮川流域エコミュージアム事業

大紀町阿曽地区には、エコミュージアムセンター「交流館 たいき」があります。ここでは誰でも気軽に利用できるコミュニティセンターとして、流域の様々な情報提供や展示によ



る紹介、流域案内人が開催する行事の支援等をおこなっています。特に流域案内人行事は、流域の自然・歴史・文化・産業・伝統を紹介し、興味や気づきを引き出す機会として、また様々な体験ができる場として、エコミュージアムの中心的な役割を担っています。

(2) 宮川水質チェック

宮川の清流を今後とも守り育てていくため、流域の皆さんとの協働により、流域 23 カ所で、水環境調査をおこなっています。水質が良くなることだけでなく、毎月川を見つめることで川への関心が高まることも期待しています。

また、この調査結果については、当協議会ホームページにて公開しており、宮川の水質状況について情報発信をおこなっています。



(3) 宮川プロジェクト

宮川流域住民・企業・行政が宮川流域でおこなっている清流宮川を守る様々な取組を支援し、住民同士の輪の拡大や地域の活性化を図ることが、「想いをかたちに！ 宮川プロジェクト」です。

これらの取組を「宮川プロジェクト活動集」で紹介(PLAN)し、それぞれの主体が多彩な活動を展開する(DO)、活動報告会の場で活動の報告・交流をおこない(CHECK)、翌年度に向け改善・実行(ACTION)していきます。この仕組みにより、協働の輪を広げ地域の活性化につなげていきます。



(4) 宮川流域子ども川サミット

様々な体験活動をとおして、宮川流域の子どもたちの交流を図り、自然や地域の大切さなどを理解することを目的として、「宮川流域子ども川サミット」を開催しています。平成 27 年度(第 14 回)は、伊勢市横輪町を会場として、地域の散策や水辺での遊び・水生生物の観察などをおこないました。



4. かわせみ募金

守ろう清流！かわせみ募金をキャッチフレーズに募金を募り、植樹をはじめ環境美化活動・宮川水質チェックの試薬購入など、清流宮川環境保全活動をおこなっています。



5. おわりに

宮川をはじめ流域の自然・歴史・文化・産業・伝統を守り、この地域の宝物として次の世代へ引き継いでいくことが大切であると考えます。宮川流域ルネッサンス協議会は、これからも流域の皆さんとともに「宮川流域宣言」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

『ミズベリング世界会議』が開催されました！

近畿地方整備局 河川部河川環境課
地域連携係 中川雅樹

「ミズベリング」ってご存じでしょうか？

「ミズベリング」とは、「水辺+RING（リング・輪）」の造語であり、また、「水辺+R（リノベーション・再生）+ING（進行形）」の造語でもあります。

これは、水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体（輪）となり、その輪が各地域、各機関に広がり、また大きな輪となすことを意味するものです。また、かつての水辺の賑わいを取り戻すべく（再生）、多くの人を巻き込み、語り合い、水辺とまちが一体となった美しい景観を創造し続けるためのムーブメントをここから起こす（進行形）ことを意味しています。

大阪で水辺を活用した取り組みとして進んでいる「水都大阪」、「道頓堀」や「中之島」などを想像するとイメージしやすいでしょうか。

何れも、川沿いに遊歩道やテラス、川側を向いたお店やカフェなど、水辺が賑わうようになってきました。

国土交通省では、このような賑わいと活力のある水辺の創出を目指す、「ミズベリング・プロジェクト」の取組を推進しています。

その一環として、水辺の賢い使い方についてみんなで考える「ミズベリング会議」を、これまで全国各地で開催されてきましたが、今回、世界の水辺にも目を向けて考えようということで、『ミズベリング世界会議』が、「水都大阪」として全国に先駆けてミズベの利活用が進んでいる大阪で開催されました。

ミズベリング世界会議 2015 年 10 月 9 日（金）～ 11 日（日）

場 所：堂島リバーフォーラム

○国内はもとより、アメリカ、フランス、タイより、水辺で活躍するキーマンが集結し、3日間に渡って、仕組みづくりや、民間活力のノウハウについて結集、発信していき、水辺の新たな使いこなしや将来像について議論されました。

10 月 9 日（金） ミズベシンポジウム

世界のの水辺利用先進都市である、サンアントニオ（アメリカ）、パリ（フランス）、バンコク（タイ）、そして大阪から、キーマンを招聘し、活用事例を通して活動や事業を支える仕組みや民間活力の導入手法、水辺をキッカケとしたまちづくりなどが披露されました。



サンアントニオ（アメリカ）



シャウアー氏

バンコク（タイ）



クンスリソムバット氏

パリ（フランス）



ペルー氏

大阪（日本）



忽那氏

10月10日（土） ミズベワークショップ

海外からパネリストを含め、まちづくりの専門家、全国水都ネットワーク、民間企業らのミズベで活躍する、30名を超える「トップミズベラー」が集結し、「見つける」「伝える」「設える」「育てる」「広げる」の5つのキーワードワークショップを展開。

各チーム毎にテーブルに分かれテーマごとに。船上会場も設置し外部中継を結んだりしながら、水辺の魅力アップや将来像について、いろいろなアイデアが出されました。

参加者 約 300 名



船上会場中継



外部会場から
映像を中継



ワークショップで
出されたみなさんの
アイデアを、アクション
ブックとして整理してい
ます。

ミズベリング世界会議
<http://mizbering-osaka.info/>
・アクションブックや当日の動画
をアップしています。

10月11日（日） ミズベ未来アクション

「大学連携・学生発表」

関西の大学連携し、学生から水辺の利活用、エリアマネジメントなどをテーマに
未来のまちづくりデザインをプレゼン。水辺の将来像について議論されました。

学生発表



「バトルトーク」

学生発表後、ミズベで活動する民間業者、有識者、行政ら豪華パネリストによる
バトルトークが実施されました。3日間の振り返り、それぞれの立場から、ミズベ
の今後・未来像について様々な見解・意見が出されました。

また、参加者の方からも水辺に対する熱い意見をいただき、白熱したトークとな
りました。

バトルトーク



最後に、この3日間をふりかえり、「今回出された意見・アイデアの実現に向けて取組む」ということを宣言して閉会しました。

3日間で、延べ約1,000名の参加をいただきました。水辺の利用が進んでいる大阪での開催ということも多数の参加がいただけた要因のひとつと考えます。

ただ、水辺が賑わっている道頓堀や中之島などは大阪府・市の管理区間で、国が管理する淀川本川でも今回の「世界会議」をキッカケのひとつとして、新たな賑わいづくりをと意気込んでいます。

また、地域ごとに河川やインフラの状況も異なり、どこでも同じことができるわけではありません。地域ごとのニーズにあった、水辺の利活用を考えていく必要があります。

今回ご参加いただけた方々も、国内外の事例や、仕組みづくりの情報に触れ、地元を持ち帰っていただき、ミズベリング・プロジェクトの推進、新たな取り組みに繋がることを期待しています。

3日間、それぞれでアンケートを行い、いろいろなご意見をいただきました。

幸い、大半の方は「満足」「どちらかといえば満足」という回答をいただきましたが、内容に関しては、「生物環境の視点」「防災面の要素」等の要素を議論に追加する、それらの知見を有した方を加える、といったご意見。「一方的に話を聞くだけになった。もっと観客が参加できるように」、といったご意見をいただきました。

その他、よりよくするためのアドバイスとなる意見を多数いただきましたので、これらは記録として整理し、今後のミズベリング・プロジェクト推進の参考資料としていきたいと考えています。

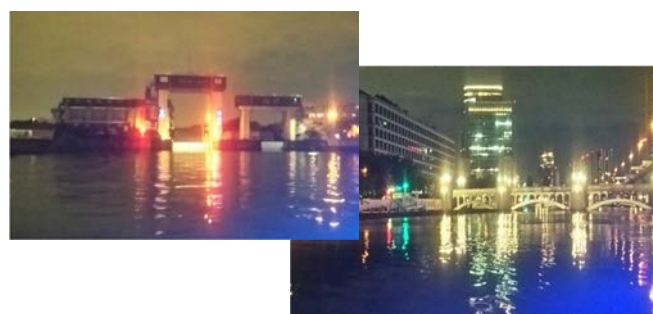
~~~~~

○水辺の魅力を体験するプログラムとして開催された連携メニューも、多数のご参加をいただきました。

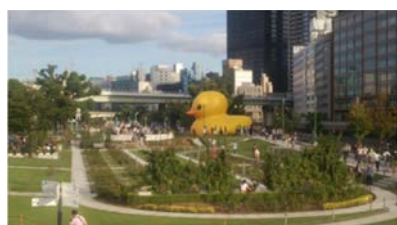
・淀川大堰・毛馬閘門見学会



・ナイトクルーズ（八軒家浜～毛馬閘門）



・中之島公園にはラバー・ダックが出現していました



これからも、いろいろな地域で  
「ミズベリング・プロジェクト」が  
展開されていきます！！

HP <http://mizbering.jp/>





## 第20回水シンポジウム2015 in ふくい

考えよう「水の恵みと災害への備え」  
～幸福度日本一の福井から未来への提案～

福井県 土木部 河川課 軽部 正宣  
長谷川 義人

### 1 はじめに

水シンポジウムは、水が自然や人に与えるさまざまな恩恵と諸問題について、住民、企業、学会、行政が幅広く討議や意見交換を行い、連携を深めることにより水に関する提言を全国に発信することを目的に、社団法人土木学会水理委員会（現公益社団法人土木学会水工学委員会、以下「土木学会」という。）の呼びかけにより平成6年に鳥取県で第1回が開催され、以来、毎年全国各地で開催されています。

今年第20回となる水シンポジウムを福井県で開催しましたので、その取り組みをご紹介します。

### 2 取組み内容

平成26年10月に「第20回水シンポジウム2015 in ふくい実行委員会」（以下「実行委員会」という。）を土木学会、国土交通省近畿地方整備局、福井県、福井市をメンバーとして発足させました。

実行委員会には企画部会を設け、定期的に討論を重ね、福井ならではのシンポジウムを作り上げようと忌憚の無い意見を寄せ合いました。

開催にあたっては、チラシ、ポスターをはじめ、関係機関が発行する広報誌や運営するメーリングリスト、テレビ、ラジオ、新聞等の広報媒体を活用し積極的にPRを行い、多くの方（2日間計552名）にご参加いただきました。

また、開催後にはシンポジウムの様子を15分の特別番組として、地元テレビ局から放送し、広くシンポジウムの提言を発信しました。

シンポジウムの内容は次のとおりです。

催事名 第20回水シンポジウム2015 in ふくい

考えよう「水の恵みと災害への備え」

～幸福度日本一の福井から未来への提案～

開催日 平成27年8月27日（木）シンポジウム

〃 28日（金）現地見学会

会 場 シンポジウム A O S S A（福井駅東口）

8 F 福井県県民ホール／6 F 地域交流プラザ（第2分科会会場）

現 地 見 学 会 水の恵みと歴史の探訪～奥越前ぐるり一回り～

福井県奥越地方を中心とする水に関わる施設等

#### シンポジウム次第

(1) 特別講演「日本文明と水循環」

講師 竹村 公太郎（NPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局長  
／首都大学東京客員教授・東北大学客員教授）

(2) 基調講演「福井豪雨から足羽川の景観まちづくり」

講師 進士 五十八<sup>いそや</sup>（福井県里山里海研究所長／東京農業大学名誉教授・元学長）

(3) 第1分科会 水防災の新展開 ～福井から始めよう新たな対策～

コーディネータ 里深 好文（土木学会基礎水理部会長／立命館大学教授）

(4) 第2分科会 水辺環境の保全 ～福井の川・水とのつきあい方～

コーディネータ 福原 輝幸（福井大学大学院教授）

(5) 子どもたちによる発表

やわらぎ木田保育園

福井佼成幼稚園

小浜市立口名田小学校

(6) 全体会議

コーディネータ 中北 英一（実行委員会委員長／京都大学防災研究所副所長 教授）

コメンテータ 中山 恵介（土木学会幹事長／北見工業大学教授 現神戸大学大学院教授）

(7) 次回開催県挨拶（山口県）

（特別講演）

なぜ奈良盆地で日本文明が生まれたか、また、その後の奈良からの遷都など日本史における転換を「流域」をキーワードに解説されました。

また江戸時代は権力が流域に封じられていた流域社会であったのに対し、近代は鉄道により流域が横断され都市集中社会に変化したとし、人口、経済のピークが過ぎた現代は、行政の力が弱っており、行政の隙間を民間企業やN G Oと連携して埋めていかなければならないと話されました。



特別講演

（基調講演）

平成16年7月福井豪雨を受けて実施された足羽川激甚災害対策特別緊急事業（以下「激特事業」という。）について御講話いただきました。

景観を研究されている進士氏は激特事業において足羽川河川環境整備検討会の委員長を務められました。堤防強化のため、福井市のシンボルである足羽川桜並木を切らなければならなかった。その際の地元住民との対話のこと、将来の景観を見据えた多様性、多層性に富んだ桜並木の保全・再生について取り組まれたことを話されました。



基調講演



### （第1分科会）

土木学会が担当した第1分科会では、平成16年7月福井豪雨で起こったことや、当時の対応、また災害以降、改善したことを気象台、学識経験者、報道機関、地元活動団体、行政機関のパネリストが紹介し、これからの新しい水防災のあり方について議論を行いました。



第1分科会



第2分科会

### （第2分科会）

第2分科会は、地元関係機関が担当となり企画構成を行いました。川を通じた地域住民と行政の関わりによる保全と活用や地域の防災強化をキーワードに、学識経験者、地元活動団体、行政機関のパネリストから国内外の水辺環境に関する取組み事例を紹介し、水辺環境の可能性について議論するとともに、川を楽しみ自然から学ぶ大切さを確認しました。

### （子どもたちによる発表）

平成16年7月福井豪雨からの復旧を機に、足羽川堤防で毎年エコキャンドルを実施している、やわらぎ木田保育園と福井佼成幼稚園による踊りや演奏、台風被害を踏まえた防災マップづくりや、川に親しむ学習に取り組んでいる小浜市立口名田小学校による水防災に備える大切さや取組みを寸劇で発表してもらうなど、未来を担う子どもたちの取組みを元気に紹介してもらいました。



やわらぎ木田保育園

福井佼成幼稚園

小浜市立口名田小学校

### （全体会議）

各分科会のコーディネータをパネリストに、シンポジウムを統括し、以下の4つの項目を提言として発信しました。

- 福井豪雨等による過去の洪水や豪雪を教訓とし、インフラ整備に加えて、市民との協働による災害に強い地域づくりに取り組みます。

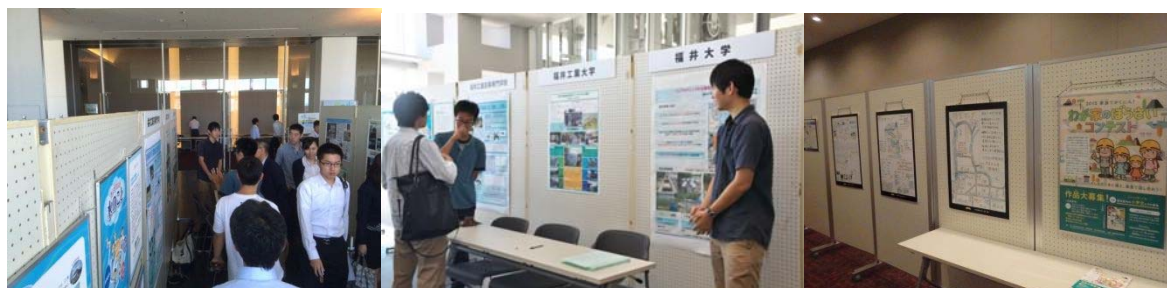
- 水との深い関わりを持つ歴史・文化を守り、啓発活動を通して豊かな水循環を将来に継承します。
- 九頭竜川のサクラマス遡上などにみられる里山・里川・里海湖の環境豊かなつながりを大切にし、川と地域をつなぐまちづくりを進めます。
- 気候変動への対応も含め、子供達の未来のために100年スケールで川と親しむ幸福度の高いまちを創ります。



全体会議

#### (パネル展示)

関係機関や地元活動団体からの出展の他、県内大学生による水に関する取組みを紹介するポスターセッションや昨年、福井豪雨から10年を契機とした取組みで実施した防災コンテストの入賞作品を展示しました。



パネル展示

#### (現地見学会)

地域住民が一体となったまちづくりに活用されている福井市東郷地区の徳光用水（堂田川）、一乗谷川に沿って繁栄した戦国城下町であった一乗谷朝倉氏遺跡、日本名水百選に選ばれている大野市御清水、左右両岸に階段式魚道、人工河川式魚道が設置されている九頭竜川鳴鹿大堰など水に関わる施設等を探訪しました。



福井市東郷地区

一乗谷朝倉氏遺跡

大野市御清水

九頭竜川鳴鹿大堰

### 3 おわりに

生命の源である水は、貴重な資源である一方、洪水などを引き起こし人々の生活を脅かす存在であるなど、幅広い側面を持っています。

近年の気候編変動等に伴い、全国各地で洪水や土砂災害による被害が頻発しており、水や水辺が危険であることを啓発することは重要です。一方で水の恵みや、水辺環境の豊かな地域を未来の子どもたちに引継いでいくことも我々の責務です。

今回のシンポジウムでは幅広い関係者により、災害に強い地域づくりや水辺に親しむまちづくりについて、活発な議論をいただき、力強い未来へのメッセージを発信できたのではないかと考えています。



## 奈良県南部東部地域シンポジウムの開催

奈良県地域振興部南部東部振興課 津田 敏史

奈良県南部地域を中心に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害から4年が経過しようとしている平成27年9月3日(木)に、この大水害の記憶を風化させず後世に引き継いでいくとともに、過疎化・高齢化が進む県南部東部地域が、今後「頻繁に訪れてもらう」「住み続けられる」地域となるよう、活力ある地域づくりについて考えるため「奈良県南部東部地域振興シンポジウム」を開催しました。



日 程 : 平成27年9月3日(木)

場 所 : かしはら万葉ホール ロマントピアホール(橿原市小房町)

主 催 : 奈良県(後援:奈良県市長会、町村会)

内 容 : 1. 基調報告「紀伊半島大水害の教訓を後世に語り継ぎ、今後の防災に役立てる」  
2. パネルディスカッション「奥大和で幸せな暮らしに出逢う～交流から定住へ向けた各地域での取組～」

|              |                   |          |          |
|--------------|-------------------|----------|----------|
| 参加者 : (国会議員) | 代理出席 4 名          | (県議会)    | 12 名     |
| (市町村長)       | 五條市長、天川村長、野迫川村長ほか |          | 13 名     |
| (市町村議員)      | 66 名              | (市町村職員)  | 91 名     |
| (国機関)        | 23 名              | (一般、報道等) | 94 名     |
| (県関係)        | 荒井知事、松谷副知事ほか      |          | 89 名     |
|              |                   |          | 合計 392 名 |

### 1. 基調報告「紀伊半島大水害の教訓を後世に語り継ぎ、今後の防災に役立てる」

【報告者】 中本 章 氏(野迫川村北股区長)

約3年半に及んだ北股区民の避難生活を、先頭に立って区民をまとめ上げてきた中本氏に紹介していただきました。

また、災害で落ち込んだ地域を復興させ、元気な地域づくりに取り組むことが今後の課題であると挙げていただきました。



### 2. パネルディスカッション「奥大和で幸せな暮らしに出逢う～交流から定住へ向けた各地域での取組～」

【コーディネーター】 有江 正太 氏(特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュ代表理事)

【パネリスト】 東 寛明 氏(山添村波多野地区活性化協議会代表)

坂口 哲夫 氏(十津川村大字谷瀬総代)

梶谷 哲也 氏(黒滝村森林組合)

松田 麻由子 氏(宇陀市 伊那佐郵人 局長)

特定非営利活動法人空き家コンシェルジュ代表理事である有江氏をコーディネーターに迎え、4名のパネリストにご参加いただきました。

東氏には農業体験イベントや茶畑オーナー制度を通じた交流の取組を、坂口氏には大水害をきっかけとした谷瀬地区の地域おこしの取組を、梶谷氏には移住の経緯、山仕事やチェーンソーアートを通じた交流の取組を、松田氏には移住の経緯、移住後の苦労話、伊那佐郵人を通じた交流の取組を発表していただきました。

ディスカッションの中では、「体験・交流を通して地域を知ってもらい、移住・定住に繋げていきたい。」「移住対策の取組、空き家情報など、地域の情報を移住を希望している人へ発信することが重要。」「移住者の生活を地域住民や行政がサポートできる体制づくりが必要。また移住する側も、地域の行事に積極的に参加するなど、地域とのコミュニケーションづくりが大切。」など、貴重なご意見をいただきました。

### 3. パネル展示「紀伊半島大水害復旧・復興パネル展」

2階ロビーにて、パネル展示を行いました。

多くの方がご覧になられ、紀伊半島大水害の被災の様子やどのようにして復旧・復興が行われてきたのか見入っていました。



### 4. おわりに

今後も、大水害のこと・大水害から得た教訓を語り継いでいくとともに、復旧・復興のステージから“振興”のステージにステップアップし、活力ある地域づくりに向けて取り組みを進めていきたいと思えます。

## 奈良県南部東部 地域振興シンポジウム

（紀伊半島大水害復旧・復興シンポジウム）

**平成27年9月3日 木** 13:30～15:30  
(開場12:30)

かしはら万葉ホール ロマントピアホール

●基調報告：中本 章氏（野迫川村北股区長）  
「紀伊半島大水害の教訓を後世に語り継ぎ、  
今後の防災に役立てる」

●パネルディスカッション：  
「奥大和で幸せな暮らしに出逢う ～交流から定住へ向けた  
各地域での取り組み～」

●2階ロビーにて「紀伊半島大水害復旧・復興パネル展」を開催します。  
●お申し込み・お問い合わせ：奈良県南部東部地域振興課 0744-48-3015

主催：奈良県 後援：奈良県市長会・町村会

入場  
無料

## 奈良県南部東部地域振興シンポジウム

奈良県南部地域を中心に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害からまもなく4年が経過します。災害の発生以降、全力で復旧・復興に取り組んできた結果、道路等のインフラの復旧を概ね完了させることができ、避難されていた方々に帰宅していただきました。  
このシンポジウムでは、大水害の記憶を風化させず後世に引き継いでいくとともに、高齢化・高齢化が進む県南部東部地域が、今後「振興」されていく「住み続けられる」地域となるよう、活力ある地域づくりについて考えます。

**基調報告**

中本 章氏（なかもと あきら）  
野迫川村北股区長・野迫川村森林組合専務理事

紀伊半島大水害で北股区民が避難生活を強いられる中、約3年半の歳月、先頭に立って区民をまとめあげ、避難を乗り越えられた。避難生活が終わった現在も、野迫川村の防災対策や地域おこしなど様々な分野で活躍されている。

**プログラム**

12:30 開場（受付開始）  
13:30 開会  
基調報告  
13:35 基調報告（30分）  
「紀伊半島大水害の教訓を後世に語り継ぎ、  
今後の防災に役立てる」  
中本 章氏（野迫川村北股区長）

14:05 休憩  
14:15 パネルディスカッション（75分）  
「奥大和で幸せな暮らしに出逢う  
～交流から定住へ向けた各地域での取り組み～」  
■（ホスト）（司会）  
梶谷 哲也氏（東海森林組合）  
坂口 哲夫氏（十津川村大学学長）  
東 寛明氏（山添村山添多野地区活性化協議会代表）  
松田 真由子氏（伊那市 伊那郵便局、局長）  
■コーディネーター  
有江 正太氏（特定非営利活動法人  
定住者コンシェルジュ代表者）

15:30 閉会

**お申し込み方法**

- 下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送またはFAXでお申し込みください。
- E-mailでお申し込みの場合は、申込書と同事項をご記入のうえ、下記のアドレスまで送信してください。
- 入場 無料
- 申込締切 平成27年8月27日（木）
- 申込返金 先着400名様までさせていただきます。  
申込書を超えた場合はお申し込みの方に連絡いたします。

**お申し込み・お問い合わせ**

- FAX: 0744-48-3135
- E-mail: nantou@office.pref.nara.lg.jp
- 郵送: 〒634-0003 橿原市常盤町605-5  
奈良県 地域振興課 南部東部振興課
- お問合せ電話番号 0744-48-3015（土・日・祝を除く8:30～16:30）

**会場までのアクセス**

- 電車でお越しの場合～近鉄橿原線「近鉄朝陽駅」下車後 徒歩約15分
- バスでお越しの場合～近鉄橿原線「大和八木」駅または「橿原中央駅」駅下車後 徒歩約15分  
から奈良交通バス利用「小阪」バス停下車後 徒歩約15分  
近鉄橿原線「大和八木」駅からコミュニティバス利用  
「かしはら万葉ホール」バス停下車後 徒歩約15分

**「奈良県南部東部地域振興シンポジウム」参加申込書**

|          |     |    |
|----------|-----|----|
| 氏名       | 年齢  | 職業 |
| 住所（〒 - ） |     |    |
| 電話番号     | FAX |    |



## 水探検隊「水の流れツアー」

大阪市 建設局 下水道河川部 調整課 早川 潤

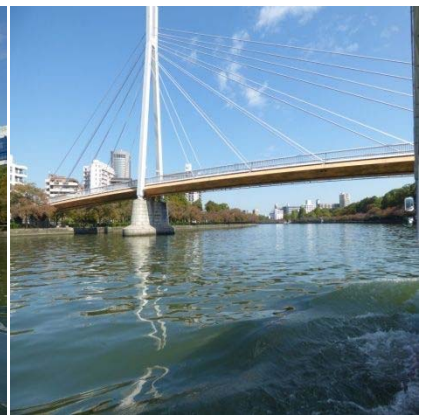
大阪市では建設局と水道局の共催事業として、水探検隊「水の流れツアー」を開催しています。

このツアーは平成3年から始まったイベントで、毎回多くの方からご応募いただいている人気のイベントです。

ツアーでは、身近にある水は自然の水（淀川）から取水し、「水道水」を浄水場でつくり、各ご家庭等で使用した「下水」を下水処理場できれいにした後、再び自然にかえすという一連の水の流れを紹介しています。また、水陸両用バスを利用しており、自然（大川）を普段とは違った視点（船上）から観察し、上下水道の役割に加えて、水質保全の重要性と「水」に対する関心と理解を深めていただいています。



水陸両用バス



水陸両用バスから見た大川の様子



柴島浄水場での見学の様子



海老江下水処理場での  
見学の様子



下水道科学館での  
修了式の様子

参加者の方々からは、「身近な事だが、全く知らない事ばかりで勉強になった」、「日頃気にせず使っている上・下水道に関する事が理解できた。水の大切さや環境について考える良いきっかけになった」、「水陸両用バスにも初めて乗れて楽しかった」、「水を大切に使わないといけなくて改めて思った」等のご感想をいただいています。

今後もこのツアーを通じて、普段何気なく使っている「水」に対して関心を持ってもらい、上下水道の役割について理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。

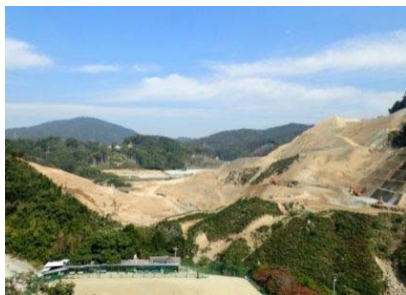
# 「出会いの場としてのダムを目指して」～安威川フェスティバル2015～

大阪府 安威川ダム建設事務所 建設課 松原 信

## 1. 安威川ダム建設事業の概要

安威川ダムは、淀川水系安威川の上流部（大阪府茨木市域）で建設を進めている、堤高 76.5m、堤頂長 337.5m、堤体積 222.5 万 $\text{m}^3$ 、総貯水容量 1800 万 $\text{m}^3$ の中央コア型ロックフィル型式の治水ダムで、昭和 42 年 7 月の北摂豪雨（死傷者 61 名、家屋の全半壊 41 戸、床上・床下浸水約 25000 戸）を契機に、100 年に一度の大雨（時間雨量 80 ミリ程度）にも対応できるように計画されました。その後、長年に渡るダムサイトに関する調査、地元地区との交渉及び生活再建対策事業や付け替え道路事業などの実施を経て、平成 26 年よりダム建設工事（受注者：大林組・前田建設工業・奥村組・日本国土開発 J V（以下「大林組 J V」））に着手し、平成 32 年のダム完成に向けて工事を進めています。

平成 27 年 9 月に転流を開始し、現在は基礎掘削を中心に工事を進めており、来年度の後半には基礎掘削を終え、引き続き堤体盛立に着手していく予定です。



安威川ダム 建設中写真

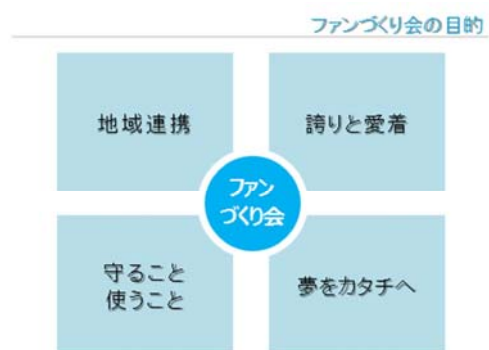


安威川ダム 完成予想図

## 2. ダム周辺の地域づくり

ダム完成後の水源地の振興、地域間の交流の活性化に向けたダム周辺の地域づくりの取り組みも進めています。

この地域づくりは、ダム完成までに、完成後もファンづくり会を中心とした団体が主体的に活動展開できるよう、ダム建設中からプロセスを大切にしながら取り組んでいます。



ファンづくり会のメンバーは、安威川周辺で活動されている団体、本取り組みに賛同を得た団体、学校、行政の 16 団体です。今年、ファンづくり会を「プロモーション部会」、「環境部会」、「アート・文化・教育部会」の 3 つの部会に編成し、得意分野を活かしたアイデアの企画、提案、年間を通じた活動を実施していくスキームづくりやファンを増やすことを考えています。



ファンづくり会の様子



### 3. 安威川フェスティバル2015

今年で2回目となる「安威川フェスティバル2015」は、安威川ダムファンづくり会の主催で10月31日(土)に開催しました。来場者は、昨年の400人を上回る1300人の方々に参加いただきました。

このフェスティバルを実施するにあたり、ファンづくり会全体会議で、テーマを「次世代へつなぐ、学びと出会いの場」と設定し、各部会からプログラムを提案し、再度全体で連携できる部分や統一できる部分を話し合いました。その後も各部会で実施に向けた調整を行い、全30のプログラムが立案されました。なお、前回は14プログラムでした。



ちらし(表紙)

#### (主なプログラム)

##### ○自然に学ぶ

安威川の生きもの展示(昆虫、水生生物)  
アマゴのつかみ捕り&塩焼き販売  
どんぐりポットづくり、丸太切り体験など

##### ○文化に学ぶ

ダム工事で伐採した木材を活用したベンチづくり  
安威川マスコットキャラクターの絵本づくり

##### ○ダムに学ぶ

###### ダム工事現場体験ツアー

バックホウ記念撮影、46トンダンブタイヤ展示  
ロックフィルダムのリップラップ材に名前を刻む  
安威川ダムケーキ(ダムケーキカード付き)販売

##### ○つなぐプログラム

防災食ふるまい、スタンプラリー  
間伐材で作ったテーブルやイスでおもてなし  
ダム周辺のサイクリングマップ

会場は、工事現場が一望できるダムサイトに近い場所であり、茨木市の特色とダム現場を活かしたプログラムでした。その中でも、施工業者の大林組JVが企画した「ダム工事現場見学ツアー」は大盛況で、アンケートではフェス以外でも実施してほしいとの声を多数いただきました。

また、フェスティバルを通じて安威川ダムを多くの方に知ってもらうことやファンづくり会の自主的活動、安威川ダムカレーの完成など、地域づくりが活発化しており、さらなる発展段階に入ったと考えています。



安威川フェスティバル2015



ダム工事現場見学ツアー

—真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進活動—

## 第36回九頭竜紅葉まつり

～流木の無料配布と広報パネル展示の取り組みを実施～

国土交通省 近畿地方整備局

九頭竜川ダム統合管理事務所 管理課

### 1. 九頭竜紅葉まつりとは

大野市の特産品や農産物の販売などにより大野市の魅力を発信し、また大野市和泉地区の壮大な自然を広く観光客の方々に知っていただくことを目的として、例年開催されている行事であり、今年も10月24日(土)・25日(日)に九頭竜ダム下流の九頭竜国民休養地(福井県大野市角野)で開催されました。

第36回目となった今回は、両日ともに素晴らしい晴天に恵まれ、2日間で延べ約65,000人と、多数の来場者を迎えての盛大なイベントとなりました。



【九頭竜紅葉まつり風景①】



【九頭竜紅葉まつり風景②】

今年の九頭竜紅葉まつりも、昨年好評だった化石発掘やトロッコ列車の乗車、魚釣りなどの体験型イベントが企画され、多くの子育てファミリーなどで賑わいました。

ステージイベントでは、大野市と友好交流市である愛知県岩倉市マスコットキャラクター(岩倉市PR大使)の「い〜わくん」とふれあうゲームや地元小学生が伝統の昇竜太鼓と、しの笛を演奏するなど広域観光交流推進を目的としたPR活動が行われ、大いに盛り上がりました。



【開催式典(大野市長の挨拶)】



【オープニングセレモニー】





## 2. 九頭竜川ダム統合管理事務所の取り組み(パネル展示及び流木無料配布)

その紅葉まつりに九頭竜川ダム統合管理事務所は、水源地域ビジョンの取り組みの一環として「パネル展」や「流木無料配布」を行いました。

水源地域ビジョンとは、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的として、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。水源地域ビジョンの推進には、「市民参加の拡大」が重要です。誰でも参加しやすく情報共有ができる市民参加の促進を図ります。





当事務所ブースでは「パネル展示」により、九頭竜ダム・真名川ダムの概要をはじめ、九頭竜ダム湖環境保全の取り組みや福井県内で実施されてきた公共事業によるストック効果などの紹介、伊勢湾台風（昭和34年9月）や奥越豪雨（昭和40年9月）による当時の福井市・大野市内の被害状況の紹介など、ダムの役割や必要性を再認識していただくとともに、防災・減災への意識の向上を図る取り組みを行いました。特に今年は真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨から50年の節目にあたることから、当時の被害状況のパネルなどをご覧になり、ダムの治水効果等に関する説明を真剣に聞き入る方が多く、近年頻発している風水害への関心が高まっていることが感じられました。

また、ダムを身近に感じて頂くためのイベントとして、九頭竜ダムで発生した「流木の無料配布」を行い、準備した流木が不足するほどの大好評となり、生け花や置物に加工するため多くの方が来場されました。

協働出店された「九頭竜自然楽校の方々による流木を利用したアート教室」も開催され、子どもからお年寄りまで年齢を問わず多くの参加者が集まり大好評でした。



【パネル内容の閲覧①】



【パネル内容の閲覧②】



【流木の無料配布①】



【流木の無料配布②】



【九頭竜自然楽校の流木アート教室①】



【九頭竜自然楽校の流木アート教室②】



## 多くの方々が「観て」「触れて」「体験」した2日間 ～ふれあい土木展2015～

近畿地方整備局 近畿技術事務所  
事業対策官 福本雅宏

### 1. はじめに

近畿地方整備局近畿技術事務所では、幅広い人々に土木技術への理解を深めていただくとともに、安全・安心な暮らしをささえる「人と技術」の魅力を発信する「ふれあい土木展2015」を2015年11月13日、14日の2日間にわたり開催しました。

今年は近畿技術事務所での会場に加え、これまで以上に多くのみなさまに知っていただくため、淀川河川事務所のご協力により、スポット会場として淀川河川公園枚方地区においても開催しました。

高度成長期以降、大量に整備された社会インフラが高齢化する時代を迎え、これらを効率的に維持管理していくための新たな技術開発など、安全・安心をささえていく土木技術の社会的役割は、将来にわたってますます重要となっていくと見込まれます。このため、土木技術に関わっている関係者が、その魅力をアピールしていく社会的使命を果たす立場にあるといえます。

近畿技術事務所では、こうした状況をふまえて、土木技術に関わる産学官の関係者が連携、協働して、スポット会場での出展を含めて53の出展と3つのイベントを実施しましたので、いくつかをご紹介します。



【きんき号が到着】

### 2. 迫力満点の建設機械や災害の原理や地震体験、救助活動などを展示



【バックホウ・ブルドーザと記念撮影】 普段、間近で観たり、触ったり、乗ったりする機会がほとんどない建設機械ですが、バックホウやブルドーザ、今回初めて展示された2本腕のロボット建設機械の運転席の体験など、子どもたちの楽しそうな笑顔がありました。他にも機械に乗れるカニクレーンや浸水被害で活躍する排水ポンプ車などの災害対策機械の展示・実演も行いました。



【地震車で地震体験】



【カニクレーン】

さらに、近畿地方整備局の災害対策ヘリコプター「きんき号」の轟音とともに着陸する姿は迫力満点で、着陸後は機内の見学も実施しました。

また、阪神淡路大震災クラスの地震を体験できる地震車や災害時に被災者の入浴支援を足湯で体験できる展示も登場し、大勢の来場者が体験しました。



【足湯でほっこり】

### 3. 小学生見学ツアー

地域の4小学校から約400名の子どもたちが13日（金）に授業の一環として見学ツアーに参加していただき、地震・津波の原理の模型、土石流模型の見学やレンガブロックでつくるアーチ橋の組立の体験もしました。

淀川ダム統合管理事務所では、ダム統合管理指令室を開放して、淀川水系内のダムや堰のコントロールについて学びました。



【レンガブロックアーチ橋】



【地震・津波の原理を学ぶ】



【排水ポンプ車の実演】



【土石流模型の見学】



【司令室で説明を聞く】

### 4. 魅せる！現場 ～現場を支える人々～

将来あるいは現在において土木技術者として活躍されている方々に、土木工事現場の魅力を紹介する催しを開催。直轄工事現場の担当者4名の方から、工事の技術的内容から現場のやりがいなどの発表やディスカッションを通して工事現場の魅力を発信することができました。



【現場の達成感などを紹介】



【ディスカッションの様子】



## 5.暮らしに役立つ気象情報 ～災害から身を守る～

日本気象協会から久保智子さん（奈良テレビ放送 「ゆうドキッ！」 気象キャスター）をお招きして、講演をしていただきました。講演では、昨今の異常気象や地球温暖化、局地的大雨による災害例など、クイズも交えながら、わかりやすいお話でした。



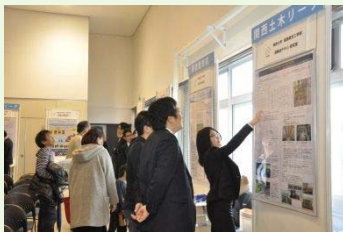
【久保智子さんの貴重なお話し】



## 6. 研究室対抗 関西土木リーグ

これからの土木を担う関西9大学、13の土木系研究室の学生がパネルや模型を用いて様々な技術研究とその魅力を紹介し、競い合いました。

近畿技術事務所の職員による審査、来場者の投票により、優秀賞、奨励賞、特別賞をそれぞれ2題ずつ、計6題が表彰されました。



【大学生の説明にも熱が入る】



【表彰式での記念撮影】

| 研究室対抗 関西土木リーグ 参加一覧 |                 |                         |                                         |     |
|--------------------|-----------------|-------------------------|-----------------------------------------|-----|
| 大学                 | 学部等             | 研究室                     | 研究タイトル                                  | 受賞  |
| 関西大学               | 環境都市工学部         | コンクリート工学研究室             | 護岸に適用する中流動コンクリートの基本的性質と劣化抵抗性            |     |
| 神戸大学大学院            | 工学研究科<br>市民工学専攻 | 流谷・片岡研究室                | 宅地盛土の水浸下特性に関する研究                        |     |
| 京都大学               | 工学研究科           | 河川流域マネジメント工学講座          | 越流・浸透による破壊のメカニズムに関する基礎的研究               |     |
| 関西大学               | 社会安全学部          | 地盤災害研究室                 | 道路斜面の健全性評価および危険箇所抽出に関する研究               | 奨励賞 |
| 立命館大学大学院           | 理工学研究科          | 環境マテリアル研究室              | ポーラスコンクリートの生物共生機能の向上と多自然型護岸への適用         |     |
| 関西大学               | 環境都市工学部         | 鋼構造デザイン研究室              | Uリブ鋼床版の疲労き裂に対する補修方法の検討                  | 奨励賞 |
| 京都大学               | 工学部             | 構造力学研究室                 | 洋上ソーラーアップドラフトタワーの構造実現性                  | 特別賞 |
| 摂南大学               | 理工学部            | 地盤工学研究室                 | 人と構造物を支える基礎の開発                          |     |
| 大阪産業大学             | 工学部             | 土質工学研究室                 | 人工干潟の堆積土と津波堆積土から流れ場の土壌形成を考える            |     |
| 大阪大学               | 大学院工学研究科        | 豪雨による斜面災害の予知・観測・対策研究チーム | 斜面に含まれる水分を予測するためのハイブリッド解析システムの開発        | 特別賞 |
| 大阪工業大学             | 工学部             | 構造力学研究室                 | 暮らしを支える橋、その安全・安心を確保するには！                | 優秀賞 |
| 大阪市立大学             | 工学研究科都市系専攻      | 応用構造工学研究室               | 鋼鉄橋の腐食したカバプレート取替がその力学的挙動に及ぼす影響に関する基礎的研究 | 優秀賞 |
| 大阪大学               | 工学部             | 構造工学領域                  | 鋼橋の戦略的維持管理手法（高耐食性を有するステンレス鋼の活用を目指して）    |     |

## 7. スポット開催（淀川河川公園枚方地区）

淀川河川公園では、洪水時の水中歩行体験や身の回りのもので身を守る技術「簡易水防工法」など、淀川資料館を含む 7 つの展示をしました。また、近畿技術事務所会場での様子を大型標識車で映像配信したことで、近畿技術事務所へ足を運ばれる方もおられました。



【スポット会場全景】



【大型標識車で映像配信】



【水没ドアを体験】

## 8. おわりに

近畿技術事務所会場、淀川河川公園会場、合わせて 2 日間で約 1,400 人の来場者にお越しいただきました。14 日は天候に恵まれない中、それでも多くの皆様にご来場いただけたことは、主催者として大変うれしく思います。

この取り組みを通じて、安全・安心をささえる土木の魅力を感じてもらい、またその大切さを知っていただき、将来、土木技術者としての道を志してもらえることを期待します。

最後になりましたが、「ふれあい土木展 2015」の開催にあたり、参加、出展、後援をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



## 第27回 大野ダムもみじ祭り

京都府建設交通部河川課 下元一男

### 1) 紹介 (由良川と大野ダム)

由良川は、京都府中・北部を流れる一級河川であり、流域面積は1,880km<sup>2</sup> (内京都府域1,700km<sup>2</sup>) で、京都府の面積の約37%を占めています。

この由良川の下流域は、過去度重なる洪水に見舞われ、中でも昭和28年9月の台風13号による出水は、由良川史上最も大きな被害をもたらした洪水と言われています。

大野ダムは、由良川流域を洪水被害から守るために国(当時建設省)が建設した多目的ダムであり、第2次世界大戦中の昭和18年に着工されましたが一時中断された後、戦後の台風被害や建設反対運動を経て、昭和36年に完成しました。その後、昭和37年4月から京都府が管理しています。



大野ダム位置図

### 2) もみじ祭り

大野ダムの貯水池(虹の湖)周辺には、紅葉の木が約500本、桜の木が約1,000本育っており、11月に「もみじ祭り」、4月に「さくら祭り」と年に2回、南丹市美山町の大野振興会が主催し、イベントを実施しています。

平成27年は、11月14日(土)、15日(日)に開催され、ダム湖周辺を散策する「虹の湖紅葉狩りウォーク」や美山町の旬の食材が使われた「ふるさと鍋」など地元が考えた温かい催しが行われました。

14日は、あいにくの雨で、地元大野小学校児童や

卒業生が演奏する「大野ふるさと太鼓」「大野にじの子太鼓」の演奏は中止になったものの、京都府内外から多くの観光客が訪れていました。



ダム湖上流より



もみじ祭り会場

### 3) おわりに

大野ダム周辺には、「さくら」や「もみじ」だけでなく、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「美山かやぶきの里」や「芦生原生林」など自然豊かな観光地も多くありますので、近くを訪れる際には、ぜひお立ち寄りいただけたらと思います。



美山かやぶきの里

## イベント情報

平成28年1月～3月

| エリア | イベント名                | 河川名           | 開催日                           | 場所                                   | 問い合わせ先                                                                             | 概要・見どころ                                                                                                               | 交通機関                                                                                           |
|-----|----------------------|---------------|-------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 滋賀県 | 淡海の川づくりフォーラム         | 琵琶湖流域         | 2月13日                         | コラボしが21<br>(滋賀県大津市打出浜2-1)            | 滋賀県流域政策局流域治水政策室<br>TEL077-528-4291<br>ryuiki@pref.shiga.lg.jp                      | 淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公認選考方式のワークショップを通して、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。 | 最寄り駅JR琵琶湖線膳所駅より徒歩約15分                                                                          |
| 奈良県 | 第9回近畿「子どもの水辺」交流会in奈良 | 近畿の河川         | 1月23日<br>10:00～16:00          | 奈良県文化会館<br>(奈良県奈良市)                  | 奈良県河川課<br>TEL：0742-27-7504<br>URL：<br>http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?menuid=14576 | 近畿各地のたくさん子ども達が、日頃の水辺活動等を発表し、交流を深めます。平成19年度から近畿各府県で開催しており、第9回目となる今回は奈良県開催になります。                                        | ■近鉄奈良駅下車：東改札口より1番出口を出てそのまま東へ徒歩約5分<br>■JR奈良駅下車：東出口バスターミナルから市内循環バス（外まわり）に乗り約10分（県庁前）バス下車、西へ徒歩約2分 |
|     | 大和川一斉清掃              | 奈良県内の大和川本川・支川 | 3月6日<br>午前中<br>※会場により時間が異なります | 奈良県内の大和川本川・支川河川敷（大和川流域県内23市町村・約60箇所） | 奈良県河川課<br>TEL：0742-27-7504<br>URL：<br>http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?menuid=14678 | 大和川の美化・愛護意識を高め、きれいな川を取り戻すため、大和川流域住民、関係団体、企業、行政（国、奈良県、大阪府、市町村）が連携して大和川の清掃活動を実施します。（大阪府下においても同日実施）                      |                                                                                                |
| 大阪府 | 大川さくらクルーズ            | 大川            | 3月下旬～4月中旬                     | 八軒屋浜船着場<br>(大阪府中央区天満橋京町)             | 大阪水上バス：TEL 0570-035-551<br>大阪シティクルーズ推進協議会：TEL 06-6942-5511                         | 水の上からお花見三昧。<br>始発10時～終発19時、5～15分毎に出港、25分間クルーズ。大人1,000円小人500円。                                                         | 地下鉄谷町線、京阪電車「天満橋駅」下車すぐ                                                                          |

※予約が必要なものもありますので、事前に問い合わせ先やホームページ等でご確認のうえお越し下さい。

### 【編集後記】

かわの情報誌「さらさ」2015【冬号】の編集を務めさせていただきました。  
貴重な時間を割いて執筆していただいた記事を読み、各取り組みやイベントへの思いを感じることができました。  
「さらさ」を通して、これまで以上に近畿各府県・政令市の情報共有ができればと思います。  
記事を投稿していただきました方々におかれましては、お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

編集担当：京都府建設交通部河川課 下元 一男